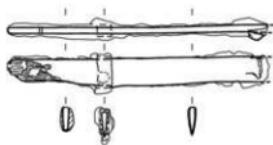


# 水戸城跡

(第 14 地点第 49 次)

一市道上市 353 号線道路改良・電線共同溝  
工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2 —



2 0 1 7

水戸市教育委員会

# 水戸城跡

(第14 地点第49次)

- 市道上市353号線道路改良・電線共同溝  
工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2 -

2 0 1 7

水戸市教育委員会

## ごあいさつ

水戸市は那珂川の流域に位置し、八溝山系の山並みと那珂川・千波湖の豊かな自然に囲まれています。私たちの祖先もこの豊かな環境のもと古くから生活を営んできました。

水戸城跡は、北を那珂川、南を桜川に開析された上市台地の先端部に立地する中・近世の城館跡です。上市台地の東側は、近世初頭に町人地として埋め立てられるまでは低湿地帯となっており、桜川に合流する千波湖も近世には上市台地の南岸一帯まで広がっており、水戸城は、北・東・南を水に囲まれた天然の要害でした。さらに、水戸城周辺は、東国から東北に至る陸路と那珂川・桜川上流から太平洋に至る河川交通路の結節点でもあり、交通の要衝として中世初頭から地方支配の拠点的性格を有していました。

埋蔵文化財はその性格上、一度破壊されてしまうと二度と現状に復すことができないため、私たちが大切に保存しながら後世へと着実に伝えていかなければならない貴重な歴史的文化遺産です。

水戸城跡では、本市が平成21年以降、取組を進めている弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくり事業の一環として、市立第二中学校や茨城大学附属小学校の白壁塀整備や杉山門・櫛町坂下門等のモニュメント整備をはじめとする水戸城を感じることができる歴史的空間の整備が進みつつあり、景観の様相も徐々に変化しております。このような文化財の整備・活用と、その地下に眠る埋蔵文化財の保護の両立は、行政としても大きな課題として懸念されるところですが、本市においては、埋蔵文化財の歴史的意義や重要性を踏まえ、文化財保護法並びに関係法令に基づき、保護・保存に努めているところです。

このたび計画された水戸城跡内における道路改良及び電線共同溝工事につきましては、文化財保護の観点から遺跡への影響を考慮し、開発部局と事前に十分な協議を重ねてまいりましたが、今回の計画によって遺跡の現状保存は困難であるとの結論に至り、次善の策として記録保存を目的とした発掘調査を実施することとなりました。

今回の調査では、中世に廻る道路跡や鉄製の短刀を埋納した小穴が検出されるなど、貴重な成果を得ることができました。

ここに刊行する本書をかけがえのない貴重な文化財に対する意識の高揚と学術研究等の資料として、広くご活用いただければ幸いです。

最後になりますが、今回の調査の実施に際し、多大なる御理解と御協力を賜りました地域住民の皆様と学校関係者の皆様、関係各位に心から御礼と感謝を申し上げます。

平成29年9月

水戸市教育委員会教育長 本多 清峰

## 例 言

1 本書は、市道上市 353 号線道路改良・電線共同溝工事に伴う水戸城跡（第 14 地点第 49 次）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2 発掘調査は、水戸市教育委員会を主体とし、㈱日本窯業史研究所の支援を受けた。

3 調査の概要は下記の通りである。

所 在 地 茨城県水戸市三の丸 2 丁目 1 - 274 番地先～1 - 285 番地先 地内

調査面積 56m<sup>2</sup>

調査期間 平成 29 年 6 月 8 日 から 平成 29 年 7 月 8 日

調査主体 水戸市教育委員会（教育長 本多 清峰）

調査担当者 米川暢敬（水戸市教育委員会事務局教育部歴史文化財課埋蔵文化財センター主幹）

調査支援 水野順敏（株式会社日本窯業史研究所）

調査参加者 井坂桂一、石橋美智代、稻田桃子、澤畠恒則、平根幸子

4 本書は、米川、水野が分担して執筆し、埋蔵文化財センター所長閑口慶久、米川の助言・指導に基づき水野が編集した。遺構・遺物のトレース、編集は菅間智子の協力を得た。

5 出土遺物及び図面・写真等の記録類は、水戸市埋蔵文化財センターにて保管している。

6 発掘調査から本書の刊行に至るまで、下記の方々、諸機関より御教示・御協力を賜った。御芳名を記して深く謝意を表する（敬称略、順不同）。

茨城県教育庁総務企画部文化課、市立第二中学校、国立大学法人茨城大学教育学部附属幼稚園・附属小学校、関東文化財振興会㈱、㈱豊島工務店、㈱小林工務店、男城建設、山下守昭

## 凡 例

1 本書に記している座標値は、世界測地系を用いている。挿図のうち、平面図の方位記号は座標北を、土層断面図の水準線の数値は、海拔標高をそれぞれ示す（単位：m）。

2 土層及び遺物の色調は『新版標準土色帳』（農林水産技術会議事務局・㈱日本色彩研究所色票監修 2008 年版）に準拠する。

3 遺構平面図・土層断面図の縮尺は、1 / 30, 1 / 60 とし、各図にスケールを明示した。

4 遺構及び土層断面における略称に使用した記号は以下の通りである。

道路跡：SF、溝跡：SD、土坑：SK、性格不明遺構（近代の遺構）：SX、小穴：P、  
擾乱：K、ローム：L、粒：R、塊：B、鹿沼バミス：KP、硬化面：

5 遺物実測図の縮尺は、土器類・鉄製品を 1 / 2、瓦・石製品を 1 / 3 で掲載し、各図にスケールを明示した。遺物の計測数値は、cm 及び g で示した。遺物実測図の断面墨ベタは須恵器を示す。

- 6 遺物番号は、実測図、観察表、写真図版とも共通である。
- 7 挿表中における（　　）内が推定値、〔　　〕内が遺存値・現存値を示す。
- 8 引用・参考文献は、一括して第2章の最後に収めた。

## 目 次

ごあいさつ

例言 凡例 目次

|                   |    |
|-------------------|----|
| 第1章 調査に至る経緯と調査の経過 | 1  |
| 第1節 調査に至る経緯       | 1  |
| 第2節 調査方法と経過       | 1  |
| 第3節 基本土層          | 2  |
| 第2章 遺跡の位置と環境      | 3  |
| 第1節 水戸城跡の地理的環境    | 3  |
| 第2節 水戸城跡周辺の歴史的環境  | 3  |
| 第3節 水戸城跡における既往の調査 | 6  |
| 第3章 遺構と遺物         | 13 |
| 第1節 1区の調査         | 13 |
| 第2節 2区の調査         | 20 |
| 第3節 3区の調査         | 27 |
| 第4章 総括            | 31 |
| 第1節 土地利用の変遷       | 31 |
| 第2節 今次調査の成果       | 35 |
| 写真図版              |    |
| 報告書抄録             |    |
| 奥付                |    |

## 挿 図 目 次

|                              |                        |
|------------------------------|------------------------|
| 第1図 基本土層図                    | 第10図 2区土坑・小穴類          |
| 第2図 水戸城跡周辺の遺跡分布図             | 第11図 2区出土遺物（1）         |
| 第3図 調査区配置図                   | 第12図 2区出土遺物（2）         |
| 第4図 1区平面図・北面土層図              | 第13図 3区平面図             |
| 第5図 1区土坑・小穴類・溝跡土層図           | 第14図 3区北・東・西面土層図       |
| 第6図 1区出土遺物（1）                | 第15図 3区出土遺物            |
| 第7図 1区出土遺物（2）                | 第16図 第6・18・23・49次遺構配置図 |
| 第8図 2区平面図完掘状態・南面土層図          |                        |
| 第9図 2区平面図硬化①面、⑥面、⑨面、<br>⑩・⑫面 |                        |

## 表 目 次

第1表 水戸城跡周辺の遺跡一覧

第4表 2区出土遺物観察表

第2表 水戸城跡における既往の調査一覧

第5表 3区出土遺物観察表

第3表 1区出土遺物観察表

第6表 出土遺物一覧表

## 写真図版目次

写真図版1 A. 1区全景（東より） B. 1区東半小穴群（東より） C. 1区SK-1～3完掘（南西より） D. 1区SK-1・3土層（西より） E. 1区SD-1・P1土層（東より）

写真図版2 A. 1区P2土層・完掘（北より） B. 1区P3土層・完掘（南より） C. 1区P6・7土層・完掘（南より） D. 1区SX-1近代遺物（西より） E. 2区全景（東より）

写真図版3 A. 2区全景（西より） B. 2区遺構確認時（西より） C. 2区①硬化面（西より） D. 2区②硬化面（南東より） E. 2区⑥硬化面（北西より）

写真図版4 A. 2区⑦硬化面（北西より） B. 2区⑨硬化面（北西より） C. 2区SD-1完掘（南東より） D. 2区⑨硬化面遺物No.5・骨片（東より） E. 2区SD-1 16層中遺物（骨片）（南より） F. 2区⑩硬化面、SD-2・3完掘（北西より） G. 2区南側硬化面土層（北より） H. 2区南側硬化面・SK-2土層（北より）

写真図版5 A. 2区中央小穴群（南東より） B. 2区P1埋納物No.6（北より） C. 2区SK-1完掘（南東より） D. 2区SD-4完掘（北西より） E. 3区全景（硬化面・東より）

写真図版6 A. 3区硬化面遺物No.3（南より） B. 3区硬化面遺物No.2（東より） C. 3区東Tr遺物No.12（南より） D. 3区東Tr遺物No.12近景（西より） E. 3区西Tr遺物No.11（南より） F. 3区西Tr遺物No.11近景（南より） G. 3区西Tr土層（南より） H. 3区東Tr土層（西より）

写真図版7 1・2(1)区出土遺物

写真図版8 2(2)・3区出土遺物

# 第1章 調査に至る経緯と調査の経過

## 第1節 調査に至る経緯

周知の埋蔵文化財包蔵地「水戸城跡」内を通る市道上市 353 号線における景観整備事業に伴い、平成 26 年 6 月 27 日付けで水戸市長高橋 靖（市街地整備課）から、水戸市教育委員会（以下、市教委）教育長あて、埋蔵文化財の試掘調査について依頼文書が提出された。

道路改良及び電線共同溝工事により影響を受ける部分は舗装されているため、水戸市立第二中学校側歩道に幅 1.5 m × 長さ 10 m のトレンチを 4 か所、幅 1 m × 長さ 3 m のトレンチを 1 か所設定し、アスファルトカッターを用いて歩道表層を切開した。試掘調査は、平成 26 年 10 月 29 日から 10 月 31 日の期間に実施し、バックホーを用いて遺構確認面を目標に掘削し、その後人力により精査した。調査の結果、溝跡 6 条、土坑 4 基、ピット 14 基、整地層 1 か所等が検出されるとともに、近世瓦や土師器・磁器片等が出土した。

この調査結果に基づき原因者である市街地整備課と保存について協議を重ねたが、計画変更等は極めて困難であることから、市街地整備課から提出のあった文化財保護法第 94 条第 1 項に基づく通知に、事前の確認調査の実施が相当である旨、意見書を付して茨城県教育委員会（以下、県教委）教育長あて進達した。この通知に対し、県教委教育長から工事着手前に発掘調査を実施すること、調査の結果、重要な遺構が確認された場合には、その保存について別途協議する旨の指示・勧告があった（平成 27 年 3 月 3 日付け文第 2814 号）。これを受けて市教委は、工事対象地 56 m<sup>2</sup>を調査対象地とし、株式会社日本窯業史研究所の調査支援を得て、平成 29 年 6 月 8 日から 7 月 8 日の期間に発掘調査を実施することとした。

（米川）

## 第2節 調査方法と経過

調査区画は、公共座標（世界測地系第 IX 座標系）に基づき、5 m 方眼を設定した。調査区南西隅を原点とし、その座標値は X = 41790.00, Y = 57945.00 である。X 軸をアラビア数字、Y 軸をアルファベットで示した。

確認された遺構は、溝類は主軸に直交、土坑・小穴類は半截により土層観察、記録の後完掘して写真撮影・実測を行った。写真撮影は、35 mm 判のモノクロ、カラーリバーサルフィルムを使用、デジタルカメラで補足した。写真にはデータを記した黒板を写し込んである。なお、各調査区の形状と北の方位が微妙な関係にあり、長軸を東西、短軸を南北と仮定して黒板に記入しており、実際の方位と若干異なる場合も生じる。撮影には三脚及び大型脚立を使用した。平面実測は、光波距離計で計測し、人手で方眼紙に作図した。土層等は計測・作図とも人手で行った。縮尺はいずれも 1 / 20 である。

平成 29 年 6 月 6 日に器材を搬入、翌 7 日より準備工に着手した。歩道のコンクリートや碎石を重機で除去し、13 日に終了した。同日より作業員が加わり、本格的調査へ移る。

西側の 3 区より調査を開始し、現地表（歩道）面下約 2.8 m まで掘り下げたが全て整地

層で、地山層には至らなかった。次に2区の調査に入ったところ、各所に大きな攪乱が見られるものの、南西部には路面と見られる硬化面が幾重にも遺存し、初期には側溝が設けられていた。1区は中央～東側に土坑、溝跡、小穴が認められたが、西側には近代の大型土坑(SX-1)があり、他の遺構はこれに切られたものと判断された。

7月4日に終了確認を受け、翌5日は記録の補足、同月6・7日の両日で埋め戻し・復旧作業を行った。整理・報告書作成作業は、野外調査と一部並行して着手し、平成29年9月末日まで実施した。  
(水野)

### 第3節 基本土層（第1図）

調査区は所謂上市台地上の標高27～28m付近に所在する。中・近世城郭内の主要な道路沿いにあたり、近代以降もその形状を踏襲して活発な土地利用がなされて來た。この為、1・2区では近代の整地層直下にローム層が現れ、ローム漸移層までは既に失われていた。しかし、3区は前述の如く現地表面下約2.8mまで掘り下げたが全て中世以降の整地層で、さらに下へ続く。したがって、基本土層とは呼べないものの、前2者と比較の意味で図示したが、第14図と重複するので個々の土層説明は省略した。  
(水野)



第1図 基本土層図

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 水戸城跡の地理的環境

水戸市は、関東平野の北東部、茨城県のほぼ中央に位置する。市域の北部には、西から東へ流れる那珂川とその支流により形成される沖積低地が広がり、これに沿うように東茨城台地が太平洋に向かって突き出している。その下流域右岸の大部分が水戸市域となる那珂川は、栃木県の那須連山を水源とし、八溝山地の西縁を南へ流れた後、烏山の南から方向を東へと変えて八溝山地を横断し、今度は御前山を背にして南東へ方向をさらに変えて那珂台地と東茨城台地との間を流れ太平洋へと注ぐ。この那珂川の存在により、栃木県域に広がる那須野が原や喜連川丘陵などの内陸部と太平洋沿岸とが水上交通によって結ばれることから、水戸市域は古くから交通の要衝地であった。

水戸城跡は、北を那珂川、南を千波湖に挟まれ、南東方向に迫り出す幅約1.5km、長さ約7kmの通称「上市台地」と呼ばれる舌状台地の東端部に立地しており、那珂川との比高は約20mである。水戸城は東西に細長く延びる台地を堀や土塁で区画する連郭式平山城に分類され、東から西に向かって東二の丸（常光寺曲輪・下の丸）、本丸、二の丸、三の丸の4つの曲輪が配置されている。

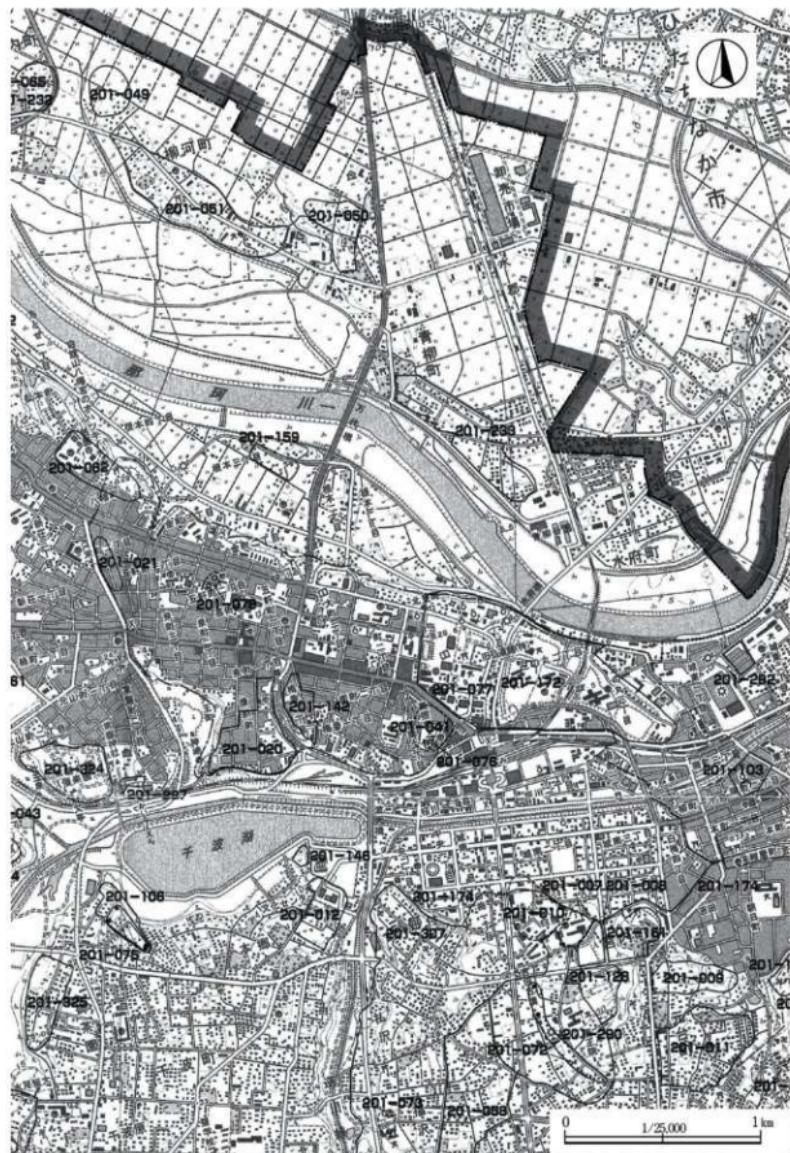
城内は現在、市立三の丸小学校・第二中学校、国立大学法人茨城大学教育学部附属幼稚園・附属小学校、県立水戸第一高等学校・水戸第三高等学校などの学校施設のほか、市立三の丸市民センター、県三の丸庁舎（旧県庁舎）、県立図書館などの生涯学習施設が立ち並ぶ文教地区となっており、本丸と二の丸の間を区切る堀と二の丸と三の丸の間を区切る堀も、それぞれJR水郡線・県道市毛水戸線という重要な交通網として土地利用が展開している。

### 第2節 水戸城跡周辺の歴史的環境

水戸城跡の沿革にも言及すべきであるが、既に詳述されていることから（関口・川口・三井・木本編 2006、渥美・河野・美濃部 2014）、ここでは割愛し、水戸城跡周辺の先土器時代～近世までの土地利用の推移について周辺遺跡（第2図・第1表）の調査成果を参照しながら時代毎に概観する。

**先土器時代** 先土器時代の遺物は大鋸町遺跡（第3地点）及び吉田神社遺跡（第1地点）の調査で確認されており、大鋸町遺跡（第3地点）からはチャート製の尖頭器が、吉田神社遺跡（第1地点）からは瑪瑙製のナイフ形石器が出土している（佐々木・大橋編 2006、前田・伊藤編 2013）が、いずれも後世の遺構外出土遺物であり、水戸城跡周辺では当該期の遺物集中地点が未だ確認されていないのが現状である。

**縄文時代** 水戸城跡周辺では早期から晩期の遺物が出土する遺跡が確認されているが、遺構が確認されたのは、大鋸町遺跡と薬王院東遺跡に限られる。大鋸町遺跡（第2地点）では、土坑6基が確認され、うち3基は中期加曾利EⅣ式期のものである（斎藤・新垣



第2図 水戸城跡周辺の遺跡分布図

第1表 水戸城跡周辺の遺跡一覧

| 番号      | 遺跡名      | 時代  |    |    |    |       |    | 備 考                                 |
|---------|----------|-----|----|----|----|-------|----|-------------------------------------|
|         |          | 先土器 | 縄文 | 弥生 | 古墳 | 奈良・平安 | 中世 |                                     |
| 201-007 | 水戸南高校遺跡  | ○   | ○  | ○  |    |       |    | 隠滅                                  |
| 201-008 | 吉田貝塚     | ○   |    |    |    |       |    |                                     |
| 201-009 | 安業寺遺跡    | ○   |    |    |    | ○     |    |                                     |
| 201-010 | お下屋敷遺跡   | ○   | ○  | ○  | ○  | ○     |    | 隠滅                                  |
| 201-011 | 大鋸町遺跡    | ○   | ○  | ○  | ○  | ○     | ○  |                                     |
| 201-012 | 下本郷遺跡    | ○   |    |    |    |       |    |                                     |
| 201-020 | 笠神町遺跡    | ○   |    |    |    |       |    |                                     |
| 201-021 | 並松町遺跡    | ○   |    |    |    |       |    | 隠滅                                  |
| 201-041 | 東照宮境内遺跡  | ○   | ○  |    |    |       |    | 隠滅                                  |
| 201-049 | 中河内上坪遺跡  | ○   | ○  | ○  |    |       |    | 柳河小学校にて出土遺物保管                       |
| 201-050 | 反町遺跡     | ○   |    |    |    |       |    |                                     |
| 201-051 | 柳河町遺跡    | ○   | ○  | ○  | ○  |       |    |                                     |
| 201-058 | 米沢町遺跡    | ○   | ○  | ○  | ○  | ○     |    |                                     |
| 201-062 | 茨城高等学校遺跡 | ○   |    |    |    |       |    |                                     |
| 201-072 | 吉田古墳群    | ○   |    | ○  | ○  | ○     | ○  | 1号墳（国史跡）は八角形墳、周辺に円筒埴輪（後期）を作った隠滅古墳あり |
| 201-073 | 弘沢古墳群    | ○   |    |    |    |       |    | 隠滅                                  |
| 201-075 | 千波山古墳群   | ○   |    |    |    |       |    | 円筒埴輪（後期）                            |
| 201-076 | 東照宮境内古墳  | ○   |    |    |    |       |    | 隠滅                                  |
| 201-077 | 三の丸古墳    | ○   |    |    |    |       |    | 隠滅                                  |
| 201-078 | 五軒町古墳群   | ○   |    |    |    |       |    | 隠滅                                  |
| 201-103 | 樺竹郡遺跡    |     |    |    |    | ○     |    | 隠滅                                  |
| 201-106 | 千波山遺跡    | ○   |    |    |    |       |    | 隠滅                                  |
| 201-128 | 薬王院東遺跡   | ○   | ○  | ○  | ○  | ○     |    |                                     |
| 201-142 | 鷹匠町遺跡    |     |    |    |    | ○     |    | 隠滅（旧梅香火葬墓跡）                         |
| 201-146 | 柳崎貝塚     | ○   |    |    |    |       |    |                                     |
| 201-159 | 根本町遺跡    | ○   |    |    |    |       |    | 隠滅（旧幸町道路）                           |
| 201-161 | 吉田神社遺跡   | ○   |    | ○  | ○  | ○     | ○  |                                     |
| 201-172 | 水戸城跡     | ○   | ○  | ○  | ○  | ○     | ○  |                                     |
| 201-174 | 笠原水道     |     |    |    |    |       |    |                                     |
| 201-233 | 青柳町遺跡    |     |    |    |    | ○     | ○  |                                     |
| 201-290 | 東組遺跡     | ○   | ○  | ○  | ○  | ○     |    |                                     |
| 201-292 | 三ノ町遺跡    |     |    |    |    |       |    |                                     |
| 201-287 | 七面製陶所跡   |     |    |    |    | ○     |    |                                     |
| 201-307 | 山崎遺跡     |     |    |    |    |       |    | H24年度版包蔵地分布地図新規登録                   |
| 201-324 | 旧倍楽園     |     | ○  |    |    |       |    | H24年度版包蔵地分布地図新規登録                   |
| 201-325 | 御茶園遺跡    |     |    |    |    |       |    | H24年度版包蔵地分布地図新規登録                   |

2005)。薬王院東遺跡（第1地点）では、中期阿玉台式期の堅穴状遺構1基が検出されている（井上 1990）。水戸城跡周辺の当該期の遺跡では、堅穴建物跡が1軒も確認されていないのが現状である。

**弥生時代** 弥生時代の遺跡は、お下屋敷遺跡、大鋸町遺跡、中河内上坪遺跡、反町遺跡、柳河町遺跡、薬王院東遺跡、吉田神社遺跡、東組遺跡など比較的多く確認されているが、大半が後期十王台式期のものに限られる。遺構が確認されているのは、大鋸町遺跡（第1・2・10地点）、薬王院東遺跡（第1地点）、東組遺跡（第1地点）において堅穴建物跡や堅穴状遺構、土坑等が検出されている。

**古墳時代** 当該期の遺跡は古墳と集落遺跡に分けられるが、水戸城跡周辺の古墳で時期が判明しているものは、千波山古墳群と吉田古墳群に限られる。千波山古墳群は前方後円墳1、円墳2から構成され、第1号墳は円筒埴輪を伴っており、後期の古墳とみられる。

吉田古墳群は奥壁に線刻壁画を持つ八角形墳1（第1号墳）、方墳？1（第2号墳）、墳形不明1（第3号墳）の3基から構成される終末期の古墳群である。第1号墳の周溝内からは埴輪片が出土しており、近隣に6世紀代の古墳の存在がうかがえる。埴輪は、茨城町小幡北山埴輪製作遺跡・ひたちなか市馬渡埴輪製作遺跡のほか、筑波山周辺の埴輪の胎土と共に通する特徴を持つものもあることから、クニの領域を超えた埴輪の供給が行われていた事が明らかとなった（閔口・川口 2007、閔口・川口・渥美 2009）。集落遺跡では、大鋸町遺跡（第10地点）、吉田神社遺跡（第1地点）で6世紀前半の竪穴建物跡が検出されている（川口・色川ほか編 2011、前田・伊藤編前掲）。

**奈良・平安時代** 奈良時代の当該地域は、常陸國那賀郡常石郷（里）・吉田郷（里）に比定されると考えられ、那賀郡衙と郡衙周辺寺院は水戸市渡里町に所在する台渡里官衙遺跡群と考えられている。水戸城跡の周辺においては、奈良・平安時代の集落が大鋸町遺跡（第1・2・3・6・10地点）、薬王院東遺跡（第1地点）、などにおいて検出されている。

**中世・近世** 当該期の遺跡は、大鋸町遺跡・釜神町遺跡・米沢町遺跡・茨城高等学校遺跡・吉田古墳群・薬王院東遺跡・吉田神社遺跡・笠原水道・東組遺跡・三ノ町遺跡・七面製陶所跡・旧備楽園が該当する。

中世の遺跡は、大鋸町遺跡・米沢町遺跡・薬王院東遺跡・吉田神社遺跡・青柳町遺跡・東組遺跡が挙げられ、大鋸町遺跡（第6・7地点）において吉田城に係る堀跡が（川口・色川編 2010）、薬王院東遺跡（第1地点）において集落に伴うとみられる井戸状遺構1基が検出されている（井上 1990）。

近世の遺跡として著名なのは、水戸藩の大規模公共事業として敷設された笠原水道と殖産興業の一環として開設された七面製陶所跡であろう。第2代水戸藩主徳川光圀によって敷設された笠原水道は、舟付橋より下流では、遺存状況が不明瞭であるが、笠原水源から舟付橋付近にかけては部分的にはあるものの良好な状態で保全されている（閔口・川口編 2010）。

第9代水戸藩主徳川斉昭によって開設された七面製陶所跡では、明確な窯跡は確認されなかったものの、物原から大量の陶磁器類が出土している（川口・閔口 2006）。

武家地では、下市に所在する三ノ町遺跡（第1地点）において、18世紀後半～19世紀前半にかけての陶磁器・土器類と生活面が確認されている。また、上市台地に所在する釜神町遺跡では、第2地点において、水戸城跡の外郭の土壘や溝状遺構、ピットなどが（川口・色川編 2009）、第4地点においては、近世の一括廃棄土坑内から陶磁器類とともに、黒地蒔絵箱物の断片が出土している（川口・色川ほか編 2011）。

農村域に該当するエリアでは、東組遺跡（第1地点）において半地下式大型土坑2基が検出されており、農産物等を貯蔵する「地下室」の可能性が指摘されている（南田編 2009）。

### 第3節 水戸城跡における既往の調査

水戸城跡では、平成17年以降、発掘調査件数が増加しており、発掘調査等の情報を整理するため、通し番号で「水戸城跡第〇〇次調査」と整理してきており、さらに調査地域と曲輪との関係性を明確にするため、以下のように地点名を付与してきている（渥美・河

野・美濃部 2014)。

- 第1地点：大手門跡（三の丸から二の丸へ至る虎口地点）
- 第2地点：県立水戸第一高等学校敷地内（本丸曲輪）
- 第3地点：茨城大学教育学部附属小学校・附属幼稚園敷地内（二の丸曲輪南西部）
- 第4地点：市立第二中学校敷地内（二の丸曲輪北半部）
- 第5地点：茨城県三の丸庁舎・茨城県立図書館敷地内（三の丸曲輪北西部）
- 第6地点：水府橋交差点付近（二の丸・三の丸間の堀北端部）
- 第7地点：特別史跡旧弘道館敷地内（三の丸曲輪北東部）
- 第8地点：一般県道232号市毛水戸線沿線（二の丸・三の丸間の土塁・堀）
- 第9地点：市立三の丸小学校敷地内（三の丸曲輪南東部）
- 第10地点：県立水戸第三高等学校敷地内（二の丸曲輪南東部）
- 第11地点：三の丸3丁目1番（街区）一帯（本丸曲輪東辺の水堀）

また、その後の調査の進展により調査次数が大幅に増加したため、第11地点以後の調査地点を以下のように整理している。

- 第12地点：三の丸2丁目22番（街区）一帯（二の丸曲輪南辺の水堀及び陸地帯）
- 第13地点：北見町1-1・9（農政局茨城農政事務所・水戸地方検察庁）一帯（中山備前守屋敷地）
- 第14地点：水戸市道上市205号線（現水戸市道上市353号線）一帯（二の丸曲輪内を走る大手道）
- 第15地点：三の丸2丁目130番（街区）一帯（二の丸曲輪北辺の空堀及び陸地帯）
- 第16地点：北見町1-11・17（水戸税務署・水戸地方検察庁仮庁舎）一帯（北三の丸武家地）

以下では、既往の調査（第2表）のうち、特記すべきものについて概観する。

**三の丸土塁及び堀跡** 旧県庁内にある土塁上に生息する銀杏の根張り等が原因で崩落した法面の修復工事に伴い実施された第3次調査（第5地点）では、初めて水戸城の土塁の構造が明らかとなった。通常の城郭の土塁の安定勾配が30°前後であるのに対し、水戸城では、関東ローム層まで平坦に削平した後、52°程の勾配で粘土・ローム層を主体とした土層を積み上げながら、その上に砂礫土を主体とする土層を積み上げて9.5mも盛土し、さらに法面は、いわゆる「敲き土居」と呼ばれる版築工法により敲きしめられていた（岡口・川口・三井・木本編 2006）。この構造は、県道市毛水戸線拡幅及び水府橋付け替え工事に伴い、茨城県教育財團が実施した第19次調査（第6地点）においても、同様の知見が得られている（清水 2010）。

**二の丸大手門跡** 二の丸大手門跡は、平成5年度に第1次調査（第1地点）が復元に向けて実施され、礎石や地業遺構・土留遺構などが検出されるとともに、陶器・土器・瓦・釘などの金属製品が出土したとされる（建築文化振興研究所編 1993）。大手門の上部構

造は現存せず、古写真や絵図で確認されるのみであったが、平成24年度に水戸市教育委員会が実施した第32次調査（第1地点）の際、礎石の一部や根石とみられる遺構が舗道直下より検出された。その後、平成27年度に実施した復元整備に向けた第40次調査（第1地点）において、大手門枠形虎口構築塗地業2箇所のほか、瓦堀跡2基、石組水路1条、礎集中地点3箇所、礎石（根石カ）1基、大手門外周基礎工跡1箇所、暗渠施設1基が検出されるとともに、大量の近世陶磁器・瓦とともに石製硯・鉄製品（鏡前・釘等）が出土した（宮田・閑口 2017）。本調査により、瓦堀跡2基や礎石の一部が確認され、大手門の復元に向け重要な根拠資料が得られた。

**二の丸南西角櫓** 市街地における文化財の新たな活用方策の検討を行うための事前確認調査として水戸市教育委員会が実施した第24・29次調査（第3地点）では、二の丸曲輪の南西角櫓の遺構が良好な状態で遺存していることが明らかとなった。二の丸曲輪の南西角櫓は、版築基壇の上に建造された二間四面の礎石建物で、残存していた礎石及び礎石据え付け痕跡から、柱間は1間（6尺5寸=1.97m）であったことが明らかとなった。この規模は、茨城県立図書館所蔵の「水戸城実測図」に描かれている二の丸南西角櫓と位置・規模がほぼ一致する。また、櫓の整地層は新旧2時期存在するようで、間に炭化材等を含む焼土層がみられることから、古い時期の櫓が明和元（1764）年の水戸城大火で焼失した後、新たに再建された可能性が高いことが判明した。整地層直上からは、櫓壁材とみられる漆喰を含む白色土のほか、大量の近世瓦や鉄釘・鏡等の建築部材が出土した。特に注目されるのは、調査区北端部から出土した三つ葉葵紋鬼瓦で、紀州和歌山藩邸とみられる東京都千代田区紀尾井町遺跡出土鬼瓦や尾張藩市ヶ谷邸出土鬼瓦などに類例が求められるものである。本調査については、現在も整理作業を継続中であり、いずれ報告の予定である。

**二の丸彰考館** 平成18・20・22年度に市立第二中学校校舎改築工事に伴い実施した第4地点の調査は、7,519m<sup>2</sup>と水戸城跡内では過去最大の面積を調査した。同調査では、旧石器時代から近現代に至るまでの多数の遺構・遺物が検出された（渥美・河野・美濃部 2014）。遺物で注目すべきは、13世紀後半の古瀬戸瓶の中に詰められた約1,500枚の渡来銭であろう。埋納された銭の中で最も古い時期に鋳造されたものは乾元重宝（758年初鋳）で、最も新しい時期に鋳造されたものは宣德通宝（1433年初鋳）であった。埋納銭はバラで詰められた状況で発見され、再利用の意図が見られず、15世紀代の整地層最上部から見つかっている事から、水戸城普請に伴う神仏への埋納行為によるものと理解されている（閑口 2007）。

中世の遺構で注目されるのは、重複して切り合う形で検出された30条にも及ぶ中世の堀跡である。これらは、江戸氏支配下の重臣屋敷地の区画溝と理解されるもので、15世紀後半～16世紀後半の間に概ね半世紀毎に堀が作り替えられており、特に16世紀代に活発化していた（閑口 2016）。こうした現象の背後には、江戸氏の南進や北の佐竹氏との確執を背景とする軍事的・社会的緊張があったと理解される。

近世の遺構で注目されるのは、第23次調査の際に北東部で検出された東西24m以上、南北19m、深さ6.4mにも及ぶ巨大な土坑である。当初は土取り穴として掘られたものであったが、後に廃棄土坑として転用されたものである。覆土中からは、陶磁器・土器・瓦をはじめとする数十万点の遺物が出土している。水戸彰考館の礎石や柱穴等の遺構は確

認されなかったが、水戸彰考館で使用された日常什器を一括廃棄したものと理解され、19世紀前半の水戸彰考館の運営の実態を知るうえで貴重な一括資料と評価される。

なお、同調査では古墳時代前期の竪穴建物跡3軒、M字形低突堤を有する円筒埴輪片1点と刀子形石製模造品1点、平安時代の竪穴建物跡4軒も検出されており、古墳時代前期と平安時代には集落、古墳時代中期には墓域としての土地利用が展開していたなど、水戸城築城以前の土地利用の一端が初めて明らかとなった（渥美・河野・美濃部前掲）。

**二の丸表御殿** 平成22年度に県立水戸第三高等学校図書館改築に伴い、財團法人茨城県教育財団によって実施された第21・22次調査（第10地点）は、表御殿のほぼ中央部に該当し、9世紀中葉から近現代に至る整地層が確認されるとともに、3基の石組貯蔵施設と3基の石組水路跡が検出された（松林 2012）。3基の石組貯蔵施設は、構築時期に時間差があり、17世紀代のもの1基、残りの2基は17世紀中葉～18世紀代のものとみられる。城内における既往の調査ではこのような遺構の検出例はなく、最も格式の高い建造物である表御殿を象徴する遺構として評価される。3基の石組水路跡は、18世紀後半～19世紀代に構築されたもので、後述する二の丸大手道の調査で検出されたものと同様、凝灰質泥岩製の切石を組み合わせたものである。その組み合わせ方には、①蓋石・側石2・底石の4点によるもの、②蓋石・凹型岩桶の2点によるもの、③底石・側壁板石積・蓋石の10数点による大型のものの3者があり、上下水や本管・枝管といった形で機能した可能性が高い。

**二の丸大手道** 平成26年～28年度にかけて歴史・観光ロード整備事業に伴い実施している第37・39・43・47次調査では、大型の石組水路が検出されている（宮田・萩原・関口・米川 2015、宮田・関口 2017）。第39・43次調査で見つかった石組水路は、凝灰質泥岩製の底石、側面切石、蓋石を組み合わせたもので、側面切石は5段積みとなっていた。その規模は、残存長32m、幅約1.4m、深さ（高さ）0.6mで、二の丸表御殿の調査で検出された大型石組水路と規模が一致する。二の丸表御殿方面へ分岐する状況が確認されていることから、大手道の地下に暗渠として埋設され、表御殿の石組み水路と接続していた可能性が高い。

**北三の丸武家地** 平成25年度に水戸地方検察庁仮庁舎建設事業に伴い、公益財團法人茨城県教育財団により実施された第62次調査（第16地点）では、奈良・平安時代の竪穴建物跡10軒、竪穴遺構1基、土坑2基のほか、近世の水路状施設1条・整地跡1か所・土坑2基などが確認された（盛野 2015）。9世紀中葉頃に廃絶したとみられる第2号竪穴建物跡からは、再分配された伝世品とみられる腰帶具の一部である青銅製の巡方が検出されており、威信財としての役割を持っていた可能性が指摘されている（盛野前掲）。近世の水路状施設は15点の特殊瓦を組み合わせたもので、相互に漆喰で接着した痕跡が残されていた。水戸城内における既往の調査では検出例がなく、調査区域の北側斜面に向かう排水路の可能性が指摘されている（盛野前掲）。茨城県立図書館に所蔵されている「江戸期水戸武士小路明細図（上市の部）」によると、寛文年間の当地点は、田代三郎衛門の拝領地に該当しており、文政9（1826）年に描かれた「水戸地図」（公益財團法人徳川ミュージアム所蔵）では、中山備前守の屋敷地が広く描かれている事から、中山家に伴う遺構である可能性がある。

**弘道館** 平成19年度に便所改築工事・下水道管改修工事に伴い実施した第13・15次

調査（第7地点）の際、5基の植栽痕とともに18世紀後半から19世紀代の陶磁器や瓦類が多数出土した（川口・色川編 2010）。陶磁器の中には第9代水戸藩主徳川斉昭が開設した七面製陶所跡の製品とみられる焼締陶器も含まれていた。その後、平成22年10月に実施した第25次調査（第7地点）は、正庁の床を支える柱の礎石周辺が陥没したため、現状復旧に向けて急遽実施したものであるが、弘道館造成に伴う整地層の下から地下室の可能性がある土坑が検出されるとともに、覆土中より近世の陶磁器・瓦が出土した。

以上が近年における水戸城跡における発掘調査成果の概要であるが、調査は部分的にしか行われておらず、点と点をつなぎ合わせて、線や面として遺構の広がりを捉えられる段階には至っていない。今後のさらなる調査の進展により水戸城跡内の通時的・共時的土地利用の動態が明らかになる事を期待したい。

(米川)

第2表 水戸城跡における既往の調査一覧

No.1

| 次<br>数 | 地<br>点 | 調査箇所                      | 調査期間               | 種<br>別 | 調査原因         | 遺構 | 遺物 | 調査主体  | 備<br>考                            |
|--------|--------|---------------------------|--------------------|--------|--------------|----|----|-------|-----------------------------------|
| 1      | 1      | 三の丸2丁目(大手門)               | H15.8.20～H15.9.2   | 確      | 大手門復元計画      | ○  | ○  | 市教委   | 調査支援：建築文化振興研究所                    |
| 2      | 2      | 三の丸3丁目10～1(水戸一高)          | H13.3.5            | 立      | 学校整備         | —  | ○  | 県文化課  |                                   |
| 3      | 5      | 三の丸1丁目5                   | H18.5.29～H18.8.24  | 確      | 史跡整備         | ○  | ○  | 市教委   |                                   |
| 4      | 3      | 三の丸2丁目6～8(茨大附属小)          | H17.5.3            | 試      | 排水溝埋設        | ○  | ○  | 市教委   | 市埋蔵文化財調査報告第11集                    |
| 5      | 3      | 三の丸2丁目6～8(茨大附属小)          | H17.6.27           | 立      | 法面工事         | —  | ○  | 市教委   |                                   |
| 6      | 4      | 三の丸2丁目9～22(水戸二中・1期工事)     | H18.8.16～H18.12.2  | 本      | 学校校舎改築       | ○  | ○  | 市教委   | 調査支援：大成エンジニアリング<br>市埋蔵文化財調査報告第61集 |
| 7      | 4      | 三の丸2丁目9～22(水戸二中)          | H17.8.29～H17.9.1   | 試      | 学校校舎改築       | ○  | ○  | 市教委   |                                   |
| 8      | 6      | 三の丸2丁目1～274ほか(水府橋塗)       | H18                | 試      | 道路整備         | ○  | ○  | 県文化課  |                                   |
| 9      | 6      | 三の丸2丁目1～274ほか(水府橋塗)       | H18                | 立      | 道路整備         | ○  | ○  | 県文化課  | 法面掘削に伴う調査                         |
| 10     | 4      | 三の丸2丁目9～22(水戸二中)          | H19.8.20～H19.9.14  | 試      | 学校校舎改築       | ○  | ○  | 市教委   | 市埋蔵文化財調査報告第35集                    |
| 11     | 6      | 三の丸2丁目1～274ほか(水府橋塗)       | H19.12.14          | 試      | 道路整備         | —  | ○  | 市教委   |                                   |
| 12     | 6      | 三の丸2丁目1～274ほか(水府橋塗)       | H20.3.20           | 立      | 道路整備         | —  | —  | 市教委   | 法面掘削に伴う調査                         |
| 13     | 7      | 三の丸1丁目6～29(弘道館内)          | H20.8.31～H20.9.4   | 試      | 便所改築(現状変更)   | ○  | ○  | 市教委   | 市埋蔵文化財調査報告第35集                    |
| 14     | 8      | 三の丸2丁目1～315(県道232号市毛沢線沿線) | H19.12.14～H20.1.18 | 立      | 解体           | —  | ○  | 市教委   |                                   |
| 15     | 7      | 三の丸1丁目6～29(弘道館内)          | H20.2.13           | 立      | 下水管改修        | —  | ○  | 市教委   |                                   |
| 16     | 9      | 三の丸1丁目6～51(三の丸小)          | H20.4.4            | 試      | 学校整備         | —  | ○  | 市教委   | 市埋蔵文化財調査報告第43集                    |
| 17     | 6      | 三の丸2丁目1～274ほか(水府橋塗)       | H20.6.9            | 立      | 県道拡幅         | —  | —  | 県文化課  | 法面掘削に伴う工事立会                       |
| 18     | 4      | 三の丸2丁目9～22(水戸二中・1期工事)     | H20.8.29～H21.2.3   | 本      | 学校校舎改築       | ○  | ○  | 市教委   | 調査支援：大成エンジニアリング<br>市埋蔵文化財調査報告第61集 |
| 19     | 6      | 三の丸2丁目1～274ほか(水府橋塗)       | H20.10.21～H21.1.31 | 本      | 県道拡幅         | ○  | ○  | 県教育財团 |                                   |
| 20     | 7      | 三の丸1丁目6～29(弘道館内)          | H20.12.8           | 立      | 井戸屋形修築(現状変更) | —  | ○  | 市教委   | 市埋蔵文化財調査報告第43集                    |

No.2

| 次数 | 地点 | 調査箇所                  | 調査期間                          | 種別 | 調査原因        | 遺構 | 遺物 | 調査主体  | 備考                                 |
|----|----|-----------------------|-------------------------------|----|-------------|----|----|-------|------------------------------------|
| 21 | 10 | 三の丸2丁目7-27(水戸三高)      | H21.9.25                      | 試  | 図書館改築       | ○  | ○  | 県文化課  |                                    |
| 22 | 10 | 三の丸2丁目7-27(水戸三高)      | H22.6.1~H22.9.30              | 本  | 図書館改築       | ○  | ○  | 県教育財团 |                                    |
| 23 | 4  | 三の丸2丁目9-22(水戸二中・道明工事) | H22.7.5~H22.8.27              | 本  | 学校校舎改築      | ○  | ○  | 市教委   | 調査支援: 大成エンジニアリング<br>市埋蔵文化財調査報告第61集 |
| 24 | 3  | 三の丸2丁目6-8(茨大附属小)      | H22.7.27~H22.8.27             | 種  | 隔離有否確認      | ○  | ○  | 市教委   |                                    |
| 25 | 7  | 三の丸1丁目6-29(弘道館内)      | H22.10.4~H22.10.8             | 種  | 史跡整備        | ○  | ○  | 市教委   |                                    |
| 26 | 4  | 三の丸2丁目9-22(水戸二中)      | H22.11.19                     | 立  | 学校整備        | —  | ○  | 市教委   |                                    |
| 27 | 7  | 三の丸1丁目6-29(弘道館内)      | H23.1.12~H23.1.28<br>H23.2.10 | 立  | 史跡整備(現状変更)  | —  | ○  | 市教委   |                                    |
| 28 | 3  | 三の丸2丁目6-8(茨大附属小)      | H23.6.17                      | 種  | 経済確認        | ○  | ○  | 市教委   |                                    |
| 29 | 3  | 三の丸2丁目6-8(茨大附属小)      | H23.8.9~H23.10.7              | 種  | 隔離範囲確認      | ○  | ○  | 市教委   |                                    |
| 30 | 1  | 三の丸2丁目1(大手門・付属小屋)     | H24.6.5~H24.6.8               | 種  | 法面保護工事      | ○  | ○  | 市教委   |                                    |
| 31 | 9  | 三の丸1丁目119-14(三の丸小)    | H24.7.18                      | 試  | 学校整備        | —  | —  | 市教委   |                                    |
| 32 | 1  | 三の丸2丁目1-274(大手門)      | H24.8.20~H24.9.4              | 種  | 大手門確認       | ○  | ○  | 市教委   |                                    |
| 33 | 11 | 三の丸3丁目1-355           | H24.9.11                      | 試  | 物件売買        | ○  | ○  | 市教委   |                                    |
| 34 | 8  | 三の丸2丁目1-82            | H25.4.26                      | 試  | 個人住宅        | —  | —  | 市教委   |                                    |
| 35 | 8  | 三の丸2丁目1-329           | H26.6.25                      | 試  | 個人住宅        | —  | —  | 市教委   |                                    |
| 36 | 3  | 三の丸2丁目6-8(茨大付属小)      | H26.10.7                      | 試  | 校庭トイレ建設     | ○  | —  | 市教委   |                                    |
| 37 | 14 | 市道上市205号線             | H26.10.29                     | 試  | 電線共同溝       | ○  | ○  | 市教委   |                                    |
| 38 | 11 | 三の丸3丁目1-355           | H27.2.25                      | 試  | 個人住宅        | —  | —  | 市教委   |                                    |
| 39 | 14 | 市道上市205号線             | H27.5.2~H27.9.15              | 本  | 電線共同溝       | ○  | ○  | 市教委   | 調査支援: 関東文化財振興会<br>市埋蔵文化財調査報告第72集   |
| 40 | 1  | 三の丸2丁目(大手門)           | H27.7.30~H27.12.15            | 種  | 大手門復元計画     | ○  | ○  | 市教委   | 調査支援: 関東文化財振興会                     |
| 41 | 3  | 三の丸2丁目6-8(茨大付属小)      | H27.8.6~H27.8.31              | 種  | 土壟確認        | ○  | ○  | 市教委   |                                    |
| 42 | 1  | 三の丸2丁目(大手門)           | H28.3.15~H28.5.31             | 種  | 大手門復元計画     | ○  | ○  | 市教委   |                                    |
| 43 | 14 | 市道上市205号線             | H28.6.10~H28.9.10             | 本  | 電線共同溝       | ○  | ○  | 市教委   | 調査支援: 関東文化財振興会                     |
| 44 | 11 | 三の丸3丁目1-301           | H28.6.7                       | 立  | 地下埋設物の有無の確認 | —  | —  | 市教委   |                                    |
| 45 | 12 | 三の丸2丁目22-113-114      | H28.9.6                       | 試  | 個人住宅        | —  | ○  | 市教委   |                                    |
| 46 | 15 | 三の丸2丁目130-22          | H29.5.11                      | 試  | 個人住宅        | —  | —  | 市教委   |                                    |
| 47 | 14 | 市道上市353号線             | H29.5.27~H29.7.21             | 本  | 電線共同溝       | ○  | ○  | 市教委   | 調査支援: 関東文化財振興会                     |
| 48 | 17 | 北見町1-9(関東農政局茨城農政事務所)  | H29.5.16                      | 立  | 公共下水管埋設     | —  | —  | 市教委   |                                    |
| 49 | 14 | 市道上市353号線             | H29.6.8~H29.7.8               | 本  | 電線共同溝       | ○  | ○  | 市教委   | 調査支援: 日本窓集成史研究所<br>市埋蔵文化財調査報告第94集  |
| 50 | 16 | 北見町1-11~17            | H29.5.23                      | 立  | 公共下水管埋設     | —  | —  | 市教委   |                                    |
| 51 | 1  | 三の丸2丁目(大手門)           | H29.6.13                      | 立  | 水道管移設       | —  | —  | 市教委   |                                    |
| 52 | 13 | 北見町1-1(水戸地方検察官宿)      | H29.7.21                      | 試  | 水戸法務総合庁舎新設  | ○  | ○  | 県文化課  |                                    |
| 62 | 16 | 北見町1-11(水戸地方検察官宿)     | H25.12.2~H26.1.31             | 本  | 水戸地方検察庁舎新設  | ○  | ○  | 県教育財团 |                                    |

※種別の記号は、次のとおりである。試：試掘調査 本：本発掘調査 立：立合調査 確：確認調査

## 【引用・参考文献】

- 渥美賢吾・河野一也・  
美濃部達也  
井上義安  
川口武彦・色川順子編  
川口武彦・色川順子・  
田中恭子・三浦健太編  
建築文化振興研究所編  
齋藤 洋・斎藤清貴  
佐々木藤雄・大橋生編  
清水 哲  
間口慶久  
間口慶久・川口武彦  
間口慶久・川口武彦・  
渥美賢吾  
間口慶久・川口武彦・  
三井 猛・木本拳周編  
田口睦子  
藤本久志  
樋口友一・伊東多三郎  
前田卓宏・伊藤千洋編  
松林秀和  
水戸市教育委員会  
南田法正編  
宮田和男・間口慶久  
宮田和男・萩原宏季・  
間口慶久・米川暢敬  
盛野浩一  
2014 『水戸城跡発掘調査報告Ⅰ 二の丸曲輪影考館の調査（1）』水戸市教育委員会  
1990 『薬王院東遺跡 千波中学校建設に伴う埋蔵文化財調査報告書』水戸市薬王院東  
遺跡発掘調査会  
2009 『平成18年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会  
2010 『平成19年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会  
2011 『平成20年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会  
1993 『水戸城大手門跡発掘調査報告書』水戸市  
2005 『大鋸町遺跡 グランディビルズ元吉田造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告  
書』水戸市教育委員会・グランディハウス株式会社・株式会社地域文化財コン  
サルタント  
2006 『大鋸町遺跡（第3地点）一市道浜田207号線側新設工事に伴う埋蔵文化財發  
掘調査報告書一』水戸市教育委員会  
2010 『水戸城跡 一般県道市毛戸戸線道路改良事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城  
県水戸土木事務所・財団法人茨城県教育財團  
2007 『水戸城の調査の歩みと課題』『江戸遺跡研究会会報』No.110 江戸遺跡研究会  
2011 『第4章 発掘調査』『水戸市指定有形文化財 八幡宮拝殿及び幣殿保存修理工  
事報告書』宗教法人八幡宮  
2013 『江戸遺跡における地鎮・埋納の諸様相』『関西近世考古学研究』第21号 関  
西近世考古学研究会  
2015 『中・近世における水戸城の変遷』『第37回 茨城県考古学協会研究発表会  
資料』茨城県考古学協会  
2016 『水戸城における堀の展開―障子堀の理解に寄せて～』『中世城郭研究』第30  
号 中世城郭研究会  
2006 『水戸城下における近世生産遺跡の調査―七面製陶所跡の調査成果を中心に一』  
『江戸遺跡研究会会報』第106号 江戸遺跡研究会  
2007 『吉田古墳Ⅱ 史跡整備計画に伴う吉田古墳群第1号墳の第3次発掘調査報告  
書』水戸市教育委員会  
2010 『笠原水道 第6次・10次・11次発掘調査報告書』水戸市教育委員会  
2009 『吉田古墳Ⅲ 史跡整備計画に伴う吉田古墳群第1号墳の第4・5次発掘調査報  
告書』水戸市教育委員会  
2006 『水戸城跡 三の丸土塁および堀の復旧に伴う工事・調査報告書』茨城県・水戸  
市教育委員会  
2011 『県央・県北のかわらけ』『茨城県考古学協会中世シンポジウム 茨城中世考古  
学最前線～ 编年と基準資料 第1分冊 発表資料編 基準資料編（県北・県  
央・鹿行・県西地区）』茨城県考古学協会中世シンポジウム実行委員会  
1963 『府城の建設と商工業の振興』『水戸市史 上巻』水戸市役所  
1968 『城郭の拡張と城中制度』『水戸市史 中巻（1）』水戸市役所  
2013 『古神社遺跡（第1地点）一大型物販店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査  
報告書一』水戸市教育委員会  
2012 『水戸城跡 茨城県立水戸第三高等学校図書館改築工事地内埋蔵文化財調査報告  
書』茨城県教育委員会・財団法人茨城県教育財團  
2008 『水戸城跡（第5地点・第6地点）現地説明会資料』  
2009 『東組遺跡（第1地点） 物販店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』  
水戸市教育委員会  
2017 『水戸城跡大手門・大手道の調査』『第39回 茨城県考古学協会研究発表会  
資料』茨城県考古学協会  
2015 『茨城県水戸市 水戸城跡（第14地点・第39次）一市道上市205号線道路改良・  
電線共同溝工事（4工区）に伴う発掘調査報告書一』水戸市教育委員会  
2015 『水戸城跡 水戸地方検察庁仮庁舎建設事業地内埋蔵文化財調査報告書』国土交  
通省関東地方整備局宮崎部・公益財团法人茨城県教育財團

### 第3章 遺構と遺物

今次調査区は、水戸市立第二中学校の出入口に面していることから、3区に分割され、合計で約56m<sup>2</sup>となった。

このうち、東の1区と中央の2区では地山のローム層が確認され、中・近世の道路跡、土坑、溝跡、小穴、埋納遺構などを検出した。しかし、西の3区は二の丸西辺土塁の至近に位置しており、現地表面下約2.8mまで掘り下げたが全て整地層で、さらに深くなることが確認された（第3図）。

遺物は、各地区とも中世～近世にわたる土師質土器、瓦質土器、陶器、炻器、磁器（青磁・染付）、瓦、鉄製品、石製品などが出土した。また、極少量の古代の須恵器や各種の近代遺物も出土している。

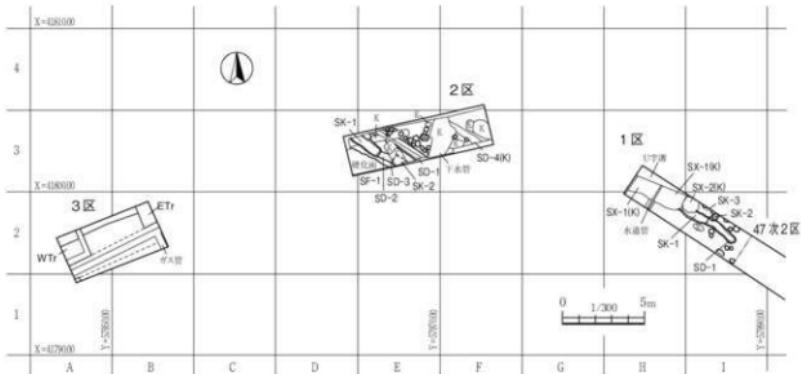
各調査区毎に以下に記載する。

#### 第1節 1区の調査

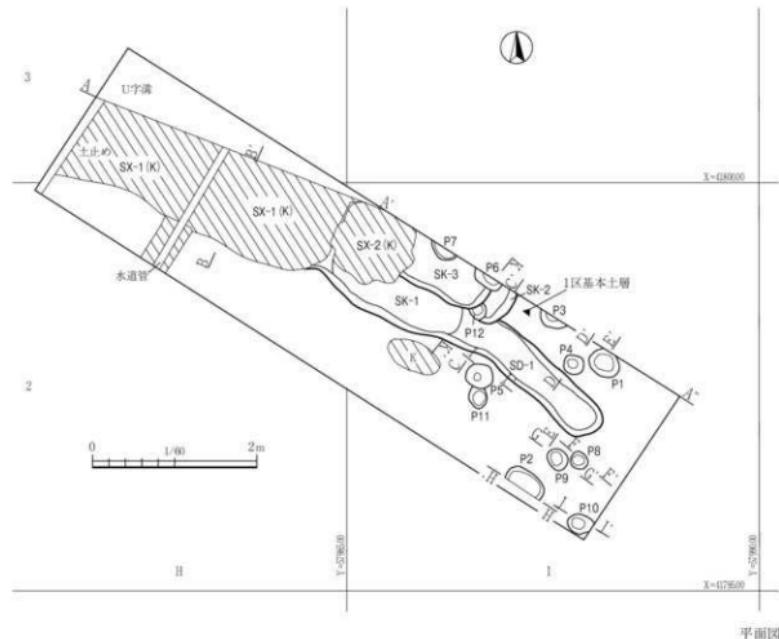
今次調査地の東端、2H・I、3H区に所在し、東端は第14地点第47次調査2区に連なる。幅2m、長さ8m、16m<sup>2</sup>の細長い調査区である。

厚さ15cmの歩道のロッキングタイル・コンクリートを除去すると、厚さ25cm程の円礫含む近代以降の整地層がある。この層を除去するとローム層が現れ、これが遺構確認面となる。したがって、近世以前の整地面（層）は遺存しなかった。また、この近代以降の整地層中に近世・近代の遺物が混在して認められる部分があり、舗装工事前に存在した溝状施設の痕跡と推察される。

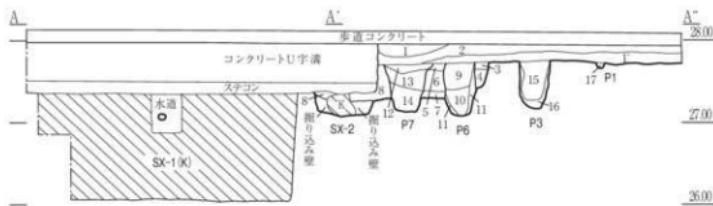
調査区の中央から東寄りでは、土坑3基（SK-1～3）、溝跡1条（SD-1）、小穴12基（P1～12）などが確認された。また、調査区西寄りでは性格不明遺構を2基（SX-1・



第3図 調査区配置図



平面図



## 1区 北面

1. 細粒褐色土 (10YR3/3) LR (1 ~ 10 mm) 15%, 内側 (3 ~ 10 mm) 5% 含む。縫まりあり
- 1'. 細粒褐色土 (10YR3/3) 1層にE-B<内側が少ない。縫まりあり
2. 内側 (3 ~ 50 mm) 主体、細粒褐色土 (10YR3/4) 30% 含む。縫まりあり
3. 細粒褐色土 (10YR3/3) LR (1 ~ 10 mm) 50% 含む。縫まりあり
4. 黒褐色土 (10YR2/2) LR (1 ~ 25 mm) 20%、黒褐色土 (10YR3/2) R (5 ~ 10 mm) 8% 合む。縫まりあり
5. 黒褐色土 (10YR3/4) LR (1 ~ 5 mm) 15%, 黑褐色土 (10YR3/2) R (1 ~ 5 mm) 8% 合む。縫まりあり
6. 底質褐色土 (10YR5/2) LR-LB (1 ~ 50 mm) 20%, 黑褐色土 (10YR3/1) R (1 ~ 10 mm) 5%, KP (1 ~ 3 mm) 少量含む。縫まりあり
7. 底質褐色土 (10YR5/2) LR (1 ~ 10 mm) 5% 合む。縫まりあり
8. に底質褐色土 (10YR5/4) LR (1 ~ 10 mm) 15%, 黑褐色土 (10YR3/1) R (1 ~ 10 mm) 8% 合む。縫まりあり
9. 細粒褐色土 (10YR3/3) LR-LB (1 ~ 50 mm) 20%, 黑褐色土 (10YR2/1) R-B (1 ~ 40 mm) 10% 合む。縫まりあり
10. 細粒褐色土 (10YR5/1) LR (1 ~ 10 mm) 10%, 黑褐色土 (10YR3/1) R (1 ~ 10 mm) 少量含む。縫まりあり
11. 明黄色褐色土 (10YR6-6) LR-LB (1 ~ 25 mm) 主体、KPB (5 ~ 25 mm) 20%
12. 細粒褐色土 (10YR3/4) LR-LB (1 ~ 40 mm) 15%, 黑褐色土 (10YR2/1) R-B (1 ~ 40 mm) 25% 合む。縫まりあり
13. 細粒褐色土 (10YR3/3) LR (1 ~ 10 mm) 10% 合む。縫まりあり
14. 黑褐色土 (10YR3/2) LR (1 ~ 5 mm) 5% 合む。縫まりあり
15. 細粒褐色土 (10YR3/3) LR (5 ~ 10 mm) 5%, CR (1 ~ 10 mm) 少量含む。縫まりあり
16. 細粒褐色土 (10YR3/4) LB (20 ~ 30 mm) 少量含む。縫まりあり
17. 黑褐色土 (10YR4/3) LR (1 ~ 10 mm) 8% 合む。縫まりあり

北面土層図

第4図 1区平面図・北面土層図

2) 確認した。このうちSK-1としたものは、東西長3.3m以上、南北長1.1m以上、深さ約1.8mと大きなもので、覆土中位より全く遺物が出土しないことから、近世の地下式坑等の施設かと思われたが、調査の進捗に伴い底面付近よりレンガ・ボルトなどが出土し、近代の遺構（搅乱）として取り扱うことになった。SK-2も近代の遺構（搅乱）で、土管を使用した排水施設の軸と考えられる（第4・5図、写真図版1-A～2-D）。

### 土坑

中央部の北寄りで3基（SK-1～3）確認したが、重複等により本来の規模・形状を明確にし得るものはなかった。

#### 第1号土坑（SK-1）（第4・5図、写真図版1-C・D）

2H・I区に位置する。北は第3号土坑（SK-3）、近代の遺構（SX-2）、上部から東側が第1号溝跡（SD-1）、西は近代の遺構（SX-1）と重複しこれらに切られていた。

現存東西長約1.8m、同南北長約0.6mで、本来は東西に長い楕円形と推察される。南辺より推定し得る長軸方位はN-69°-Wを示す。深さ22cmで、壁はやや外傾する。底面はほぼ平坦であった。覆土は単層で自然埋没と考えられる。

遺物の出土はなかった。

#### 第2号土坑（SK-2）（第4・5図、写真図版1-C）

2I区に所在する。第3号土坑（SK-3）、第1号溝跡（SD-1）、小穴（P6・12）と重複し、P12を切り、他の全てに切られていた。東辺と南辺の極一部が遺存するのみで、本来の規模・形状は不明と言わざるを得ない。現存東西長約35cm、同南北長約50cmである。主軸方位は不明。深さ30cm程で、壁は外傾する。底面は遺存部分ではほぼ平坦であった。覆土は2層で、自然埋没と考えられる。

遺物は出土しなかったが、本跡を切るP6の覆土中より肥前系磁器染付蓋（18世紀前半）が出土しており、これに先行する。

#### 第3号土坑（SK-3）（第4・5図、写真図版1-C・D）

2I区に所在する。南は第1号土坑（SK-1）、東は第2号土坑（SK-2）、西で近代の遺構（SX-2）、北は小穴（P6・7）と重複し、さらに北側へ延びる。SK-1・2を切り、P6・7、SX-2に切られていた。

南辺と東辺の一部を確認したのみで、本来の規模・形状は明確にし難い。

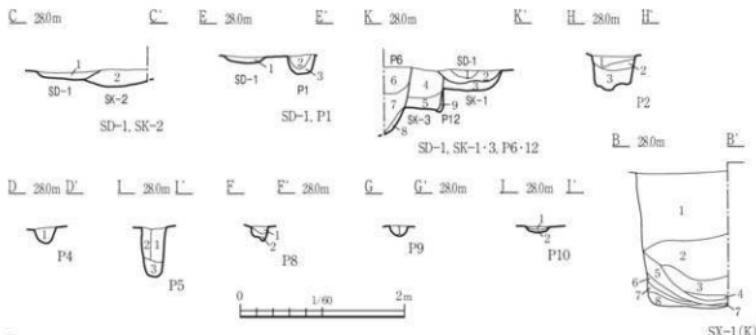
現存東西長約120cm、同南北長約60cmで、南辺より推定される長軸方位はN-62°-Wを示す。深さ約35cmで、壁はやや外傾する。底面はほぼ平坦であった。覆土は3層に分けられ、自然埋没と考えられる。

遺物の出土はなかったが、本跡を切るP6の覆土中より肥前系磁器染付蓋（18世紀前半）が出土しており、これに先行する。

## 第1号溝跡(SD-1) (第4・5図、写真図版1-A・E)

2I区に所在する。調査区の中程から東に向かって延び、現状では全長3.95m。調査区東端の60cm程手前で止まっているが、上部が削平されていることから、さらに東に延びていた可能性も否めない。第1・2号土坑(SK-1・2)と重複し、これを切っていた。西は近代遺構のSX-1・2と重複し、切られていて判然としないが、西に向かって延びていた可能性が高い。

比較的明瞭に確認できた調査区東部では、幅約45~50cm、深さ8cmで、壁は外傾し、底面はほぼ平坦であった。SK-1と接する付近で僅かに屈曲するが、主軸方位はN-54°-W



## 1区

## SD-1, SK-2

- 暗褐色土(10YR3/4) LR(1~5mm) 間量、黒色土(10YR2/1)B(20~30mm) 少量含む、緋まりあり
- 灰黃褐色土(10YR5/2) LR-LB(1~25mm) 20%、黒褐色土(10YR3/2)R(5~10mm) 8%含む、緋まりあり

## SD-1, P1

- 暗褐色土(10YR3/4) LR(1~10mm) 40%含む、緋まりあり
- 黒褐色土(7.5YR3/2) LR-LB(1~10mm) 30%含む、緋まりあり
- 黒褐色土(7.5YR4/3) 緋まり弱い

## SD-1, SK-1, 3, P6, 12

- 暗褐色土(10YR3/4) 黒色土(10YR2/1)R(1~5mm) 少量含む、緋まりあり
- 暗褐色土(7.5YR3/3) LR(1~3mm) 10%、円錐(20~40mm) 少量含む、緋まりあり
- 暗褐色土(10YR3/4) LR(3~8mm) 30%含む、緋まりあり
- 暗褐色土(10YR2/4) LR-LB(1~20mm) 20%、CR(1~5mm) 濃量含む、緋まりあり
- 暗褐色土(7.5YR3/3) LR-LB(5~30mm) 25%、黒色土(10YR2/1) 少量含む、緋まりあり
- 暗褐色土(10YR3/3) LR-LB(1~50mm) 30%、黒色土(10YR2/1)R-B(1~40mm) 10%含む、緋まりあり
- 暗褐色土(10YR3/1) LR(1~10mm) 10%、黒褐色土(10YR3/1)R(1~10mm) 少量含む、緋まり弱い
- 明黄褐色土(10YR6/6) LR-LB(1~25mm) 主体、KPB(5~15mm) 10%含む、緋まりあり
- 3.5~4.5暗褐色土(10YR5/4) LR-LB(1~20mm) 30%含む、緋まりあり

## P2

- 暗褐色土(10YR3/3) LR(1~10mm) 30%含む、緋まりあり

- 暗褐色土(10YR3/3) LR(3~5mm) 10%、黒色土(10YR2/1)R(1~5mm) 濃量含む、緋まりあり
- 暗褐色土(7.5YR2/3) LR(2~5mm) 15%、黒色土(10YR2/1)R(1~5mm) 円錐(5~20mm) 少量含む、緋まりあり

## P4

- 暗褐色土(10YR3/4) LR(1~10mm) 40%含む、緋まりあり

## P5

- 暗褐色土(10YR3/4) 緋まり弱い
- 褐色土(7.5YR4/4) LR(1~10mm) 20%含む、緋まりあり
- 暗褐色土(10YR3/3) LR(1~5mm) 10%、CR濃量含む、緋まりあり

## P6

- 黒褐色土(10YR2/3) LR(2~3mm) 5%、CR-灰褐色土(2.5YR7/1)R(1~5mm) 濃量含む、緋まりあり
- 褐色土(7.5YR4/4) 黒色土(10YR2/1)R(2~3mm)・LB(10~30mm) 少量含む、緋まりあり

## P10

- 黒褐色土(10YR2/3) LR(1~5mm) 20%、CR(1~5mm) 濃量含む、緋まりあり
- 褐色土(10YR3/4) LR(2~3mm) 20%含む、緋まりあり

## SX-1(K)

- 黒褐色土(7.5YR3/2) LR-LB、KPB(1~20mm) 30%、LB-黒色土(10YR2/1)B(50~70mm)・円錐(20~40mm) 少量含む、緋まりあり
- 黒褐色土(7.5YR3/2) LR-KPB(1~10mm)・円錐(20~40mm) 少量含む、緋まりあり
- 褐色土(7.5YR4/4) LB(10~30mm) 20%、黒色土(10YR2/1)R(1~5mm) 少量含む、緋まり弱い
- 濃褐色土(7.5YR4/4) KPB
- 褐色土(7.5YR4/4) KPB-黒褐色土(7.5YR3/2) 30%前後に合む、緋まり弱い
- 黒褐色土(10YR3/2) KPB(1~3mm) 10%、LR(3~5mm) 少量含む、糞質、緋まり弱い
- 褐色土(7.5YR4/4) LB(30~50mm) 少量含む、緋まり弱い
- 褐色土(7.5YR4/3) 黑褐色土(7.5YR3/2) 20%、LB(20~30mm)・KP(2~3mm) 少量含む、緋まり弱い

第5図 1区土坑・小穴類・溝跡土層図

を示す。覆土は2層に分けられ、遺存部分では自然埋没と考えられる。

遺物は、土師質土器皿（1-1）が出土した。

#### 小穴類（第4・5図、写真図版1-B・E、2-A～C）

調査区東半部において計12基（P1～12）の小穴が確認された。西半部にも分布していた可能性が高いものの、大型で深い近代の遺構（SX-1）等に切られていて、判然としない。径20～50cm、深さ8～55cmと大きさもまちまちで、構造物としての配置を捉えることは出来なかった。

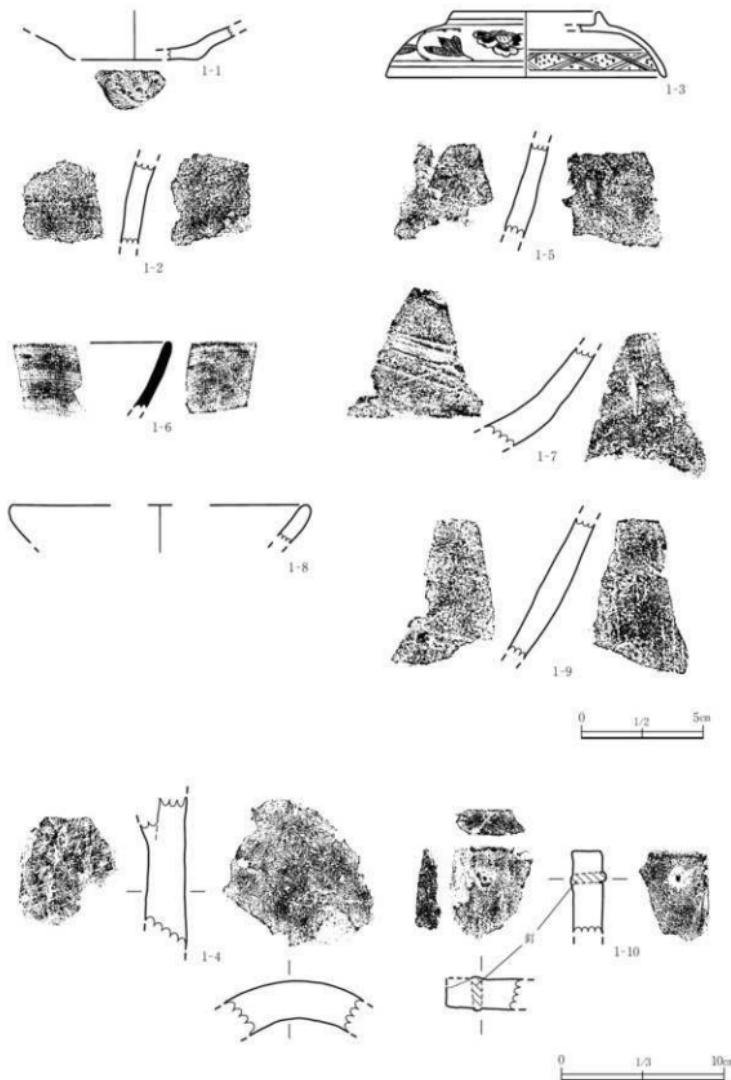
覆土中より、土師質土器（P3・11）、磁器（P6）、瓦（P5）が出土した。概ね近世の所産と推察される。

#### 1区の出土遺物（第6・7図、第3・6表、写真図版7）

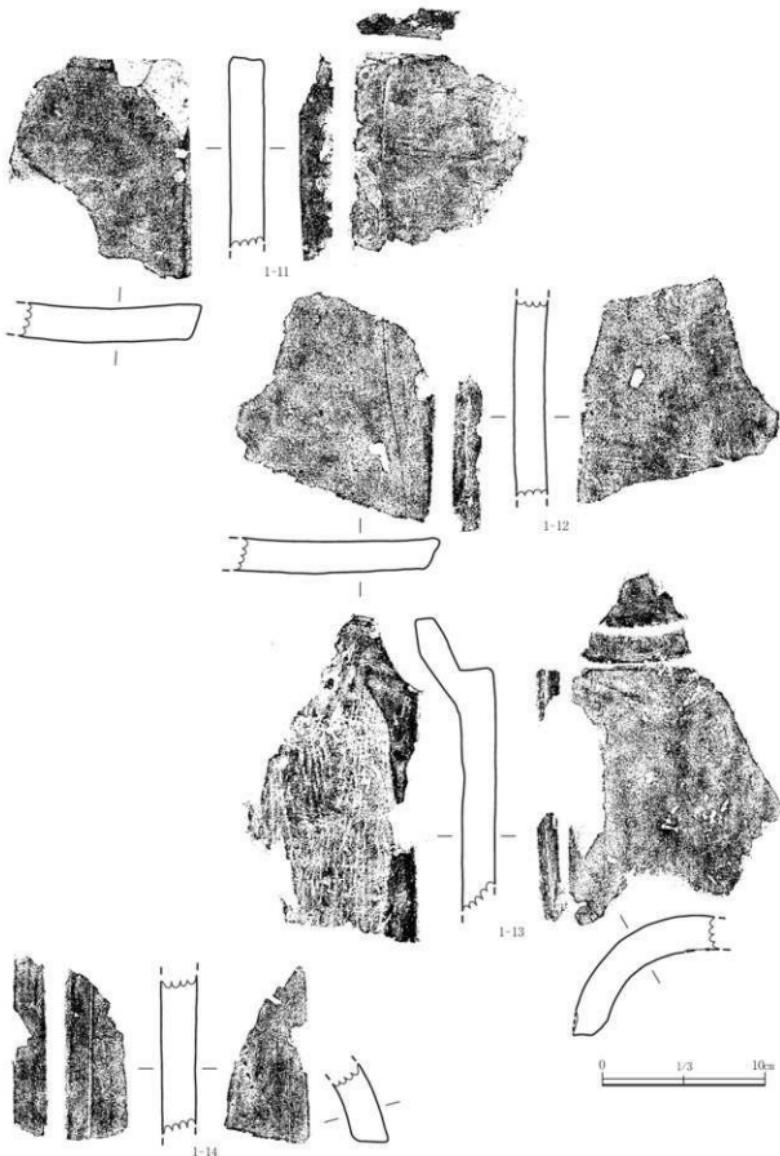
古代の須恵器壺（1-6）、中・近世の土師質土器皿、土鍋・鉢？（1-1・2・5・7・8）、肥前系磁器染付蓋（1-3）、炻器鉢？（1-9）、瓦（1-4・10～14）、近代以降のレンガ、土管、ガラス瓶、鉄製品等が出土した。  
（水野）

第3表 1区出土遺物観察表

| No.  | 種別<br>器種    | 大きさ(cm)<br>口径 高さ 厚さ                | 遺存度  | 整形・手法等                                 | 胎土・焼成・色調  | ( ) 推定値 [ ] 現存値              | 備考 |
|------|-------------|------------------------------------|--|--|---|------------------------------|----|
| 1-1  | 土師質土器<br>皿  | 口径 一<br>器高 [1.4]<br>底径 [5.2]       | 体・底部断片   | ロクロ彫形、底部糸切り                            | 胎土：織物紋 焼成：普通 色調：内 間灰褐色 (10YR5.2)-外 にぶい褐色 (7.5YR6.3)         | SD-1 覆土                      |    |
| 1-2  | 土師質土器<br>土鍋 | 口径 一<br>器高 [3.2]<br>底径 一           | 体部断片   | 輪積み、内面横ナデ                              | 胎土：織物紋 焼成：普通 色調：内 明赤褐色 (5YR5.6)-外 暗赤褐色 (5YR4.4)             | P3 覆土                        |    |
| 1-3  | 磁器染付<br>蓋   | 口径 (11.2)<br>器高 (2.7)<br>フマリ (6.0) | ロクロ彫形、外面牡丹唐草と團扇、内<br>面飾部四方攢文・天井部團扇内に唐草文<br>を丁寧に書く。種は作灰 | 20%                                    | 胎土：精良 焼成：良好 色調：胎 白色 (N8.0)                                  | P6 覆土<br>肥前系18C前半            |    |
| 1-4  | 瓦<br>男瓦     | 口径 一<br>器高 一<br>厚さ 22              | 断片   | 凹面に布引、凸面ナデ仕上げ。玉縁接合部で分離。                | 胎土：白色砂粒目立つ 焼成：普<br>通 色調：黒色 (N2.0)                           | P5 覆土                        |    |
| 1-5  | 土師質土器<br>土鍋 | 口径 一<br>器高 [3.9]<br>底径 一           | 体部断片   | 輪積み                                    | 胎土：石英、赤褐色粒、紫母細粒<br>焼成：普通 色調：内 橙色<br>(5YR2.6)-外 黑色 (10YR2.1) | P11 覆土<br>外面煤付着              |    |
| 1-6  | 須恵器<br>壺    | 口径 一<br>器高 [2.7]<br>底径 一           | ロクロ断片  | ロクロ彫形                                  | 胎土：織物紋 焼成：普通 色調：内<br>明褐灰色 (10YR5.1)-外 暗褐色<br>(10YR6.1)      | SX-1 東覆土                     |    |
| 1-7  | 土師質土器<br>鉢？ | 口径 一<br>器高 [4.0]<br>底径 一           | 体部断片   | 輪積み、外面粗いナデ。内面横ハラナデ                     | 胎土：砂粒 焼成：普通 色調：内<br>外 橙色<br>(7.5YR2.6)                      | SX-2 覆土                      |    |
| 1-8  | 土師質土器<br>皿  | 口径 (12.2)<br>器高 [1.6]<br>底径 [1.6]  | ロクロ断片  | ロクロ彫形                                  | 胎土：精良 焼成：良好 色調：表土中<br>内・外 橙色 (7.5YR6.6)                     | 表土中                          |    |
| 1-9  | 炻器<br>鉢     | 口径 一<br>器高 [5.6]<br>底径 一           | 体部断片   | 輪積み、外面上面叩き痕が薄らと認<br>められる。内面横ナデ         | 胎土：石英粒、長石粒、チャート小<br>塊 (φ8mm)、質 焼成：良好<br>内・外 暗褐色 (7.5YR4.1)  | 表土中、内面使<br>用により磨滅<br>産地不詳・中世 |    |
| 1-10 | 瓦<br>女瓦     | 口径 一<br>器高 一<br>厚さ 18              | 隔壁断片   | 凸面・凹面・側端・端面ナデ仕上げ。<br>側端・端面一面化粧、隅に鉄釘のこる | 胎土：砂粒 焼成：良好 色調：<br>褐色 (10YR5.1)                             | SX-1 西覆土<br>二次被熱             |    |
| 1-11 | 瓦<br>女瓦     | 口径 一<br>器高 一<br>厚さ 22              | 隔壁断片   | 各面ナデ仕上げ。側端・端面一面化粧、<br>端面の凹面側端僅かに隅おとし   | 胎土：砂粒 焼成：普通 色調：表土中<br>(10YR2.1)-褐色 (10YR5.1)                | 表土中<br>二次被熱                  |    |
| 1-12 | 瓦<br>女瓦     | 口径 一<br>器高 一<br>厚さ 20              | 断片   | 凸面・側端・端面ナデ仕上げ。側端一面<br>化粧               | 胎土：砂粒 焼成：普通 色調：表土中<br>黒色 (N2.0)                             | 表土中<br>二次被熱                  |    |
| 1-13 | 瓦<br>男瓦     | 口径 一<br>器高 一<br>厚さ 21              | 玉縁部断片  | 凸面・側端・凹面の側端寄りナデ仕上げ。<br>側端一面化粧。凹面横ヘラナデ  | 胎土：砂粒 焼成：良好 色調：表土中<br>褐灰色 (10YR4.1)-褐灰色 (10YR5.1)           | 表土中                          |    |
| 1-14 | 瓦<br>男瓦     | 口径 一<br>器高 一<br>厚さ 21              | 断片   | 凸面・側端・凹面の側端寄りナデ仕上げ。<br>側端一面化粧          | 胎土：砂粒 焼成：良好 色調：表土中<br>黒色 (10YR2.1)                          | 表土中                          |    |



第6図 1区出土遺物（1）



第7図 1区出土遺物（2）

## 第2節 2区の調査

本調査区は、今次調査地の中央、3D～F区に所在する。幅2.5m、長さ8.8mの22mである。北端には幅・深さとも約50cmの古いU字溝が遺存し、これを除去しての調査となつた。また、東半部はほぼ全体に擾乱を受けており、調査不可能な状態であった。さらに、西半部においても所々に擾乱が認められ、遺存状態が不良であった。

この調査区では、西半部に第1号道路跡(SF-1)が所在し、その外(東)側に多数の小穴が認められた。しかし、前述の擾乱の影響で小穴の遺存は道路側溝・第1号溝跡(SD-1)沿いに集中し、東半部の分布状況は明確でない(第8～10図、写真図版2-E～5-D)。

### 第1号道路跡(SF-1)(第8・9図、写真図版2-E～4-H)

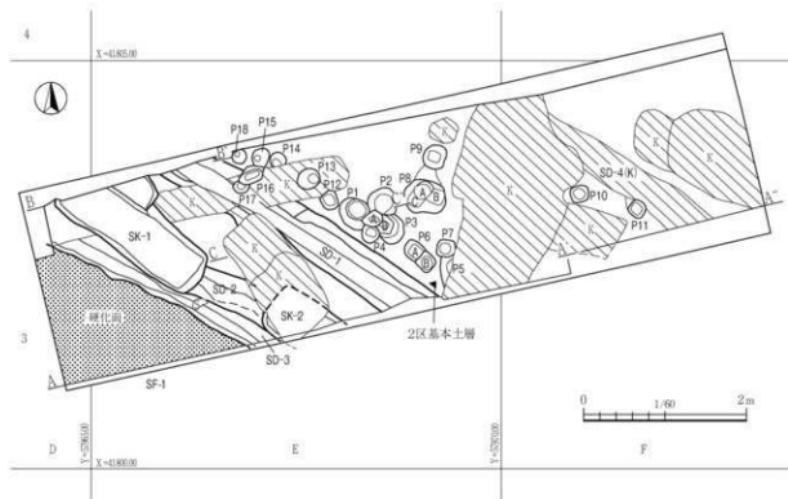
3D・E区に所在する。現路面(歩道)の30cm程下に黄褐色土(ローム主体)の近代整地層があり、これを除去すると硬化面が確認され、確認当初は平坦な路面であった。しかし、同位置で長期間にわたって利用されており、初期段階では地山を掘り込んで路面とし、側溝・第1号溝跡(SD-1)を設けたものであった。その後の改修の度ごとに、嵩上げが繰り返され、側溝部分は埋められて緩やかな法面となり、最終的にはすべて埋まって平らな路面にされた。また、側溝部分より外側まで路面と見られる硬化面が広がっており、道幅が拡張されたと推察される。なお、この明確な側溝を設けた路面の下層にもやや内側で同方向に延びる第2・3号溝跡(SD-2・3)が認められ、先行する道路の痕跡と思われる。調査区南面での土層観察では、部分的なものも含め12面の硬化面が認められた。

これらの道路改修時における遺物の混入は極めて少なく、古代の須恵器(2-3・4)、中・近世の土師質土器(2-1・2・5)、自然石利用の大型砥石(2-6)などが出土した。また、埋没途中の側溝(SD-1)より骨片と動物の歯牙、15層中からも骨片が出土している。なお、側溝の骨片は付近より出土の歯牙などから動物の可能性が高い。しかし、15層中の骨片は近くより被熱で白色化した火葬骨と思われる細片が出土しており、人骨の可能性をもつ。付近より出土の土器(2-5)から16世紀代後葉の所産と推定され、道跡の開削はこれよりやや遅ると考えられる。

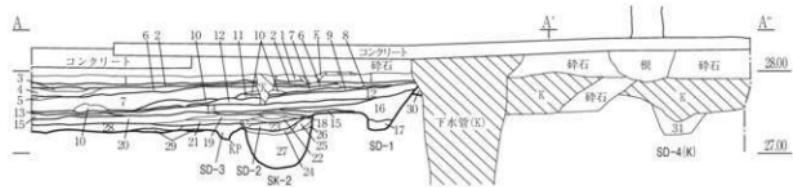
### 小穴類(埋納遺構を含む、P1～18)(第8～10図、写真図版2-E、5-A・B)

3E・F区に所在する。本調査区内より22基(P1～18、枝番含む)の小穴を確認した。多くは前記の第1号道路跡(SF-1)の側溝・第1号溝跡(SD-1)沿いに認められたが、一部調査区の東寄りにも見られた。前述の如く、調査区の東半部は擾乱が著しく旧状は窺えないが、本来は分布していた可能性が高い。径20～40cm、深さ20～45cmの円形、もしくは丸味を帯びた方形で、1区のものに比べ全体的に深く確りしている。SD-1に沿つて分布する傾向は感じられるが、構造物として捉えることは出来なかった。SF-1沿いの小穴は硬化①面下に所在したが、他は上部削平の為判然としない。

これらのうちP1としたものは、径約35×42cmの円形で、深さ中央で約35cm、東のP2を切って掘り込まれている。覆土は2層に分けられ、両者の接する付近より短刀状の



平面図完掘状態



## 2区 地圖

1. 黒色土 (7YR4/4) L 主体、縫まり強い(近代擾乱層)
2. 黒色土 (10YR3/3) 内縫 (20 ~ 40 mm) 多量に含む。やや砂質、縫まり強い。
3. 黒褐色土 (10YR3/4) LR 黒色土 (10YR2/1) R (1 ~ 3 mm) の複合土。LB (15 ~ 20 mm) 合む。縫まり強い(硬化3面)
4. 黑褐色土 (10YR2/1) LR 黑色土 (10YR2/1) R (3 ~ 5 mm) 少量含む、縫まりあり
5. 黑褐色土 (10YR2/4) LR 黑色土 (10YR2/1) R (2 ~ 10 mm) 少量含む、縫まり強い(硬化3面)
6. 黑褐色土 (10YR2/4) LR (3 ~ 5 mm) 30%、黒色土 (10YR2/1) R (3 ~ 5 mm) 20% 合む、縫まり強い(硬化3面)
7. 黑褐色土 (10YR2/3) LR (3 ~ 5 mm) 25%、黒色土 (10YR2/1) R (3 ~ 5 mm) 10%、内縫 (50 ~ 80 mm)、灰白色粘土 (10YR8/2) R (1 ~ 10 mm) 少量含む、縫まり強い(硬化3面)
8. 黑褐色土 (10YR3/3) やや砂質、縫まり強い(硬化3面)
9. 黑褐色土 (7YR3/2) 灰白色粘土 (10YR8/2) R (1 ~ 10 mm) 少量含む、縫まり強い(硬化3面)
10. 黑褐色土 (10YR2/4) 黑色土 (10YR2/1) R (3 ~ 5 mm) 10%、LB (10 ~ 20 mm) 20% 合む、縫まりあり(硬化3面)
11. 黑褐色土 (10YR2/2) 黑色土 (7.5YR4/4) R (3 ~ 5 mm) 少量含む、縫まり強い(硬化3面)
12. 黑褐色土 (10YR2/3) LR (3 ~ 5 mm) 30%、黒色土 (10YR2/1) R (1 ~ 5 mm) 10% 合む、縫まり強い(硬化3面)
13. 黑褐色土 (10YR3/4) 縫まり強い(硬化3面)
14. 砂質、内縫 (10 ~ 40 mm) 30%，黑褐色土 (10YR3/3) R (1 ~ 10 mm) 15% 合む、縫まり強い(硬化3面)
15. 黑褐色土 (10YR3/3) 内縫 (30 ~ 40 mm) 20%、砂 20% 合む、縫まり強い(硬化3面)
16. 黑褐色土 (7.5YR3/2) 内縫 (20 ~ 30 mm) 10%、内縫 (60 ~ 70 mm) 褐斑合む、縫まり強い(硬化3面)
17. 黑褐色土 (7.5YR3/3) やや砂質
18. 黑褐色土 (7.5YR3/3) LR (2 ~ 3 mm) 10% 合む、縫まり強い(硬化3面)
19. 黑色土 (7.5YR4/4) L 主体、縫まり強い(硬化3面)
20. 黑褐色土 (10YR2/1) 黑色土 (10YR2/1) R (5 ~ 8 mm) 5%、内縫 (20 ~ 30 mm) 5% 合む、粘土、縫まり強い(硬化3面)
21. 黑褐色土 (7.5YR3/3) 黑色土 (10YR2/1) R (3 ~ 4 mm) 10%、LR (1 ~ 10 mm) (灰白色粘土 (10YR8/2) R (1 ~ 10 mm) 少量含む、縫まり強い(硬化3面)
22. 黑褐色土 (7.5YR3/3) 黑色土 (10YR2/1) R (1 ~ 5 mm) 少量含む、やや粘質、縫まり強い(硬化3面)
23. 黑褐色土 (7.5YR3/3) 黑色土 (10YR2/1) R (1 ~ 5 mm) 少量含む、縫まり強い(硬化3面)
24. 黑褐色土 (7.5YR3/4) LB (20 ~ 40 mm) 15% 合む、縫まり強い(硬化3面)
25. 黑褐色土 (7.5YR3/2) LR-LB (11 ~ 30 mm) 10% 合む、縫まり強い(硬化3面)
26. 黑褐色土 (10YR2/3) 粘土、縫まり強い(硬化3面)
27. 黑褐色土 (7.5YR3/3) LR-LB (1 ~ 50 mm) 30%、KP (2 ~ 4 mm) 少量含む、縫まり強い(硬化3面)
28. 黑褐色土 (7.5YR3/4) 硬化土含む、粘質、縫まり強い(硬化3面)
29. 黑褐色土 (7.5YR3/4) 硬化土含む、粘質、縫まり強い(硬化3面)
30. 黑褐色土 (7.5YR3/4) LR (2 ~ 3 mm) 10% 合む、縫まり強い(最も強い硬化3面)
31. 黑褐色土 (10YR3/3) LR (2 ~ 3 mm) 少量含む、縫まりあり (SD-4)

南面土層図

第8図 2区平面図完掘状態・南面土層図

鉄製品（2-8）が出土した。鉄製品は刃部上半を欠損するが、切先を上にしてほぼ垂直に埋められていた。なお、遺構確認面に残されていたミニユニボのパケットの痕跡から、上部は後世に欠損したものと推察される。したがって、本跡は何らかの目的をもって意図的に刃器を埋納した所謂「埋納遺構」と考えられる。これ以外の遺物の出土はなく、時期を特定し難いが、周囲の状況から近世初頭もしくはそれ以前の所産と推察される。

小穴類の遺物としては、他にP2より常滑系炻器壺（2-7）の小片が出土した。

### 土坑

2基の土坑（SK-1・2）を確認したが、ともに第1号道路跡（SF-1）の下より確認された。

#### 第1号土坑（SK-1）（第8～10図、写真図版5-C）

3D・E区に所在する。上部は第1号道路跡（SF-1）に切られ、北半部は調査区外に所在する。東辺に張り出しがあり、確認当初は重複かと思われたが、土層観察から一体のものと判断した。南北長約2m、東西長約0.7mの長方形で、東辺の北寄りが35cm程張り出し、長軸方位はN-56°-Wを示す。深さは張り出し部で約65cm、本体部分はこれより10cm程深い。壁はほぼ直立し、底面は平坦であった。覆土は6層に分けられ、人為的埋没と考えられる。張り出し部の最下層には炭化物（材）の痕跡が認められた。遺物は出土しなかった。

#### 第2号土坑（SK-2）（第8・9図、写真図版4-H）

3E区に所在する。上部は第1号道路跡（SF-1）に切られ、南半部は調査区外に所在する。また、調査区内においては攪乱によって大部分が切られていた。

現存南北長約85cm、同東西長約60cmの隅丸長方形と推定され、長軸方位はN-54°-Wを示す。深さ約65cmで、壁は僅かに外傾し、底面はほぼ平らであった。覆土は単層で、ローム粒・塊を多く含み、人為的埋没と考えられる。遺物の出土はなかった。

### 溝跡（第8～10図、写真図版4-C・E・F、5-D）

本調査区では計4条の溝跡（SD-1～4）を確認した。第1号溝跡（SD-1）は第1号道路跡（SF-1）が最も整備された際の側溝、第2・3号溝跡（SD-2・3）はそれに先行する段階の道路側溝の痕跡と考えられる。中軸方位はN-58°-62°-Wを示す。また、SD-1の東約2.3mにこれに平行するように延びる第4号溝跡（SD-4）を確認したが覆土の状況から攪乱と判断した。なお、覆土上位より近世の陶器細片（2-9）が出土したものの、混入品と考えられる。

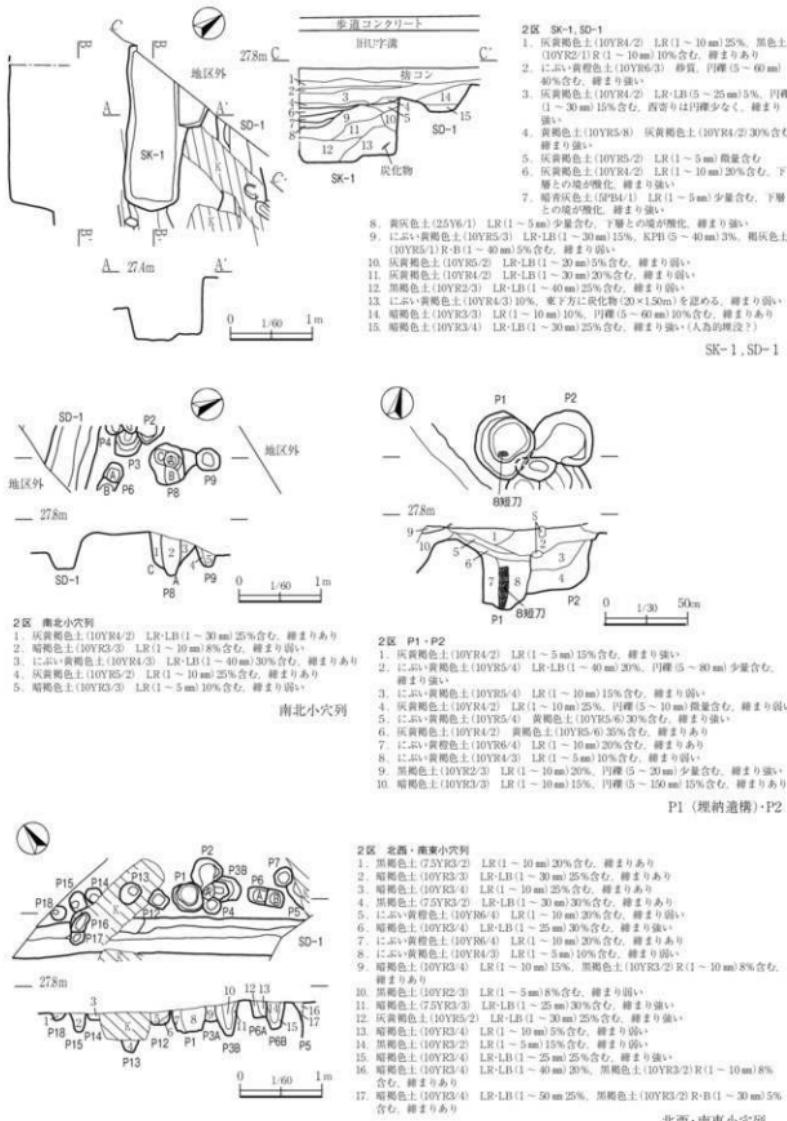
### 2区の出土遺物（第11・12図、第4・6表、写真図版7・8）

古代の須恵器壺・盤（2-3・4）、中・近世の土師質土器皿（2-1・2・5）、肥前系陶器・絵唐津の皿（2-9）、常滑系炻器壺（2-7）、瓦（2-10・11）、鉄製品（短刀？・2-8）、自然石利用の大型砥石（2-6）等の他、近・現代の磁器染付碗・爛徳利？（2-12・13）、レンガ等も出土した。

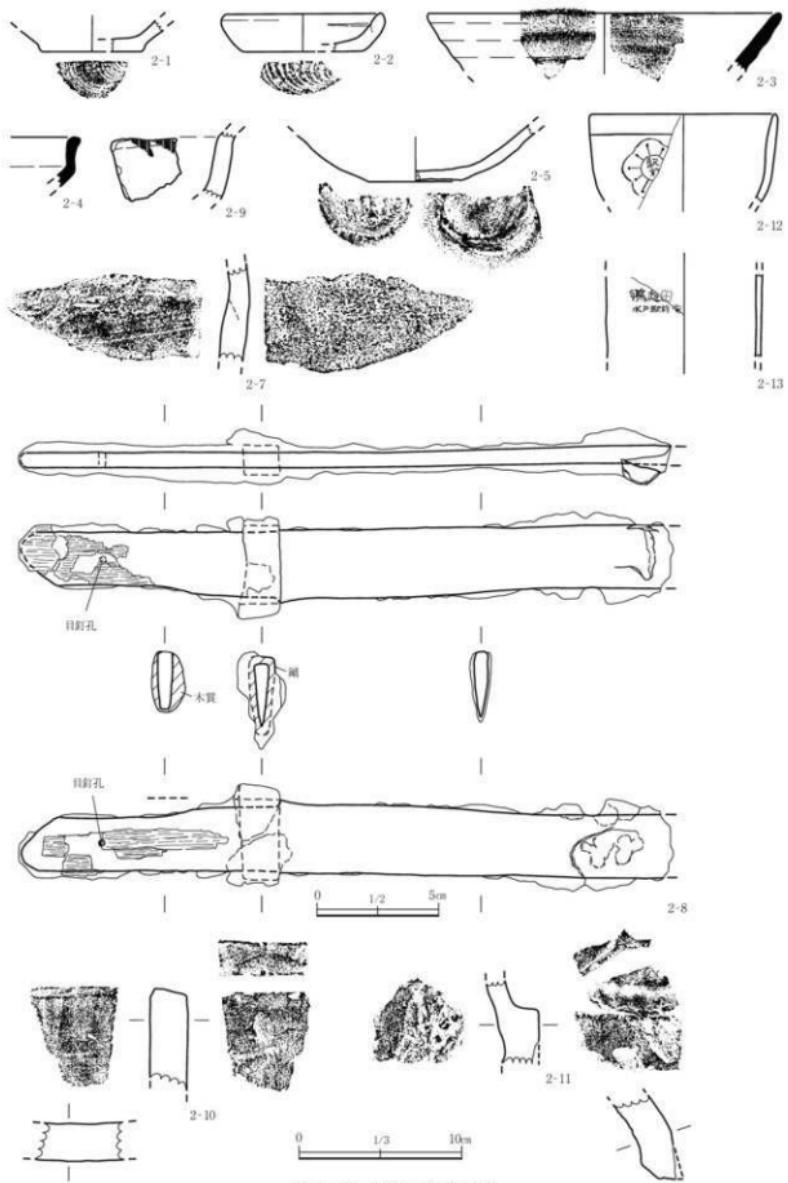
（水野）



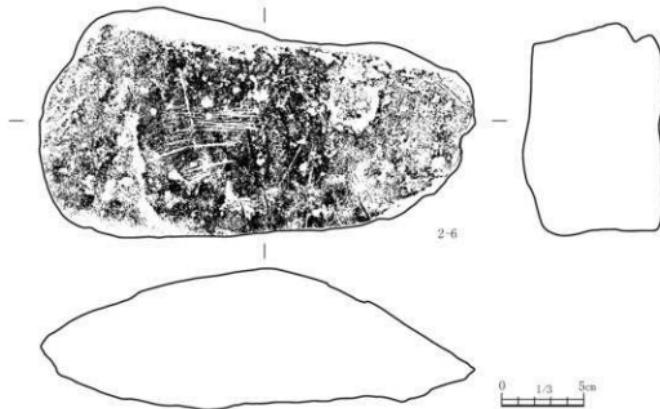
第9図 2区平面図兼比①面、⑥面、⑨面、⑪・⑫面



第10図 2区土坑・小穴類



第11図 2区出土遺物(1)



第12図 2区出土遺物（2）

第4表 2区出土遺物観察表

| No.  | 種別<br>器種   | 大きさ (cm)<br>口径・高さ・底径   | 遺存度           | 整形・手法等  | 胎土・焼成・色調   | ( ) 推定値 [ ] 現存値   | 備考                                 |
|------|------------|--|---------------|---|--|---|------------------------------------|
| 2-1  | 土師質土器<br>皿 | 口径<br>器高<br>底径<br>[(1.3)<br>(4.1)]                           | —             | 体・底部断片<br>ロクロ成形、底部糸切り   | 胎土：細砂粒 焼成：普通 色調：<br>内・外褐色 (10YR4/1)・外灰褐色<br>(10YR5/2)        | 2層中(硬化2面)   |                                    |
| 2-2  | 土師質土器<br>皿 | 口径<br>器高<br>底径<br>[(6.3)<br>(1.6)<br>(5.0)]                  | 口辺～底部<br>20%  | ロクロ成形、底部糸切り   | 胎土：白色砂粒 焼成：普通 色調：<br>内・外にいぶい褐色 (5YR5/4)<br>・いぶい褐色 (7.5YR6.3) | 6層中<br>二次被熱   |                                    |
| 2-3  | 須恵器<br>环   | 口径<br>器高<br>底径<br>[(14.4)<br>(24.4)<br>—]                    | 口辺部断片         | ロクロ變形   | 胎土：長石粒 焼成：普通 色調：<br>内・外褐色 (10YR6/1)                          | 7層中   |                                    |
| 2-4  | 須恵器<br>盤   | 口径<br>器高<br>底径<br>[(20)<br>—<br>—]                           | 口辺部断片         | ロクロ變形   | 胎土：砂粒 烧成：真好 色調：<br>内・外褐色 (10YR5/1)                           | 12層中  |                                    |
| 2-5  | 土師質土器<br>皿 | 口径<br>器高<br>底径<br>[(23)<br>(3.8)<br>—]                       | —             | 体・底部断片<br>底部は50%  | ロクロ成形、底部糸切り、板目状圧痕  | 胎土：砂粒、雲母繊維 焼成：普<br>通 色調：内・外明褐色 (10YR5/8)                  | 15層中                               |
| 2-6  | 石製品<br>砾石  | 長さ<br>厚さ<br>幅<br>重量<br>[27.1<br>8.9<br>145<br>4.60kg]        | —             | 自然石を利用、一面にのみ使用 (刃や<br>らえ) 斧   | —  | —   | 21層中<br>黒色安山岩?                     |
| 2-7  | 埴器<br>口    | 口径<br>器高<br>底径<br>[(5.6)<br>—<br>—]                          | —             | 体部断片  | 輪積み、内面横ナデで火色の照りを認<br>める。外縫継の削り痕。降灰を認める                       | 胎土：長石粒、砂質強い 焼成：<br>いくぶんあまい 色調：内・外褐色<br>(25YR3/2)          | P2 覆土<br>削れ口に覆付着<br>常温系17C前半       |
| 2-8  | 鉄製品<br>短刀? | 長さ<br>厚さ<br>幅<br>重量<br>[(26.9)<br>0.6～0.7<br>23～27<br>27.4g] | 刃部～茎部<br>約60% | 鍛造、平造、鍔により開不明、茎部長<br>約92、幅2.5、厚さ0.6で木質がこり、<br>目釘孔1つ。刃部規格長約17.2、幅約<br>2.7、袖厚0.7、切先削を欠損 | —  | —   | P1 (埋納遺構) の理納物。切先<br>側の欠損は後世のものと推定 |
| 2-9  | 陶器<br>皿    | 口径<br>器高<br>底径<br>[(27)<br>—<br>—]                           | —             | 体部断片  | ロクロ成形、内面施釉、縁に鉢紋による文様が認められる                                   | 胎土：精良 焼成：真好 色調：<br>内・外灰色 (5Y6/1) の釉                       | SD-4 (K) 覆土<br>肥前系続唐津、<br>17C 初    |
| 2-10 | 瓦<br>女瓦    | 口径<br>器高<br>厚さ<br>[(—)<br>—<br>24]                           | —             | 断片  | 凸面・凹面・縫面ナデ仕上げ。縫面一面<br>化粧                                     | 胎土：砂粒 焼成：普通 色調：<br>凸面にいぶい褐色 (10YR7.2)、<br>凹面灰白色 (10YR8.2) | 推乱                                 |
| 2-11 | 瓦<br>男瓦    | 口径<br>器高<br>厚さ<br>[(76)<br>(5.6)<br>—]                       | —             | 玉縁部断片   | 凸面・側端・凹面の側端寄りナデ仕上げ。<br>凹面離れ布筋、側端一面化粧                         | 胎土：砂粒 焼成：普通 色調：<br>褐色 (10YR6/1)                           | 推乱<br>二次被熱                         |
| 2-12 | 埴器<br>網    | 口径<br>器高<br>底径<br>[(76)<br>(5.6)<br>—]                       | 口辺・体部断片       | ロクロ成形、外縫に縫文「梅花文」<br>内に「網前」の文字 (転写)  | 胎土：精良 焼成：良好 色調：<br>胎白色 (N8.0)                                | 推乱<br>近・現代  |                                    |
| 2-13 | 埴器<br>網底利? | 口径<br>器高<br>底径<br>[(33)<br>(6.4)]                            | —             | 体部断片  | ロクロ成形、外縫に「志田 水口駅前<br>電……」の文字 (転写)                            | 胎土：精良 焼成：良好 色調：<br>胎白色 (N8.0)                             | 推乱<br>近・現代                         |

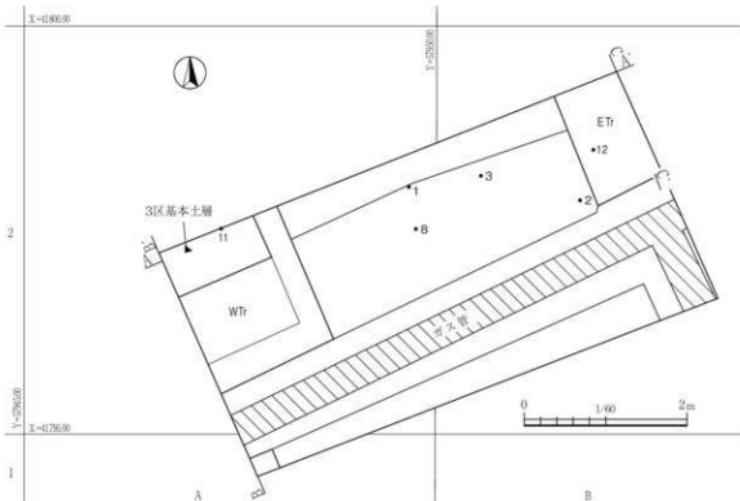
### 第3節 3区の調査

本調査区は、今次調査地の西端1A・2A・B区に所在し、二の丸土塁の至近に位置する。幅3m、長さ6m、18mの長方形の調査区である。全面が硬化面を含む整地層で、北西隅のテストピットでは現地表（歩道）面下約2.8mまで掘り下げたが地山面には至らず、ボーリングステッキによる探査でさらに1m以上は深くなることが判明した（第13・14図、写真図版5-E～6-H）。

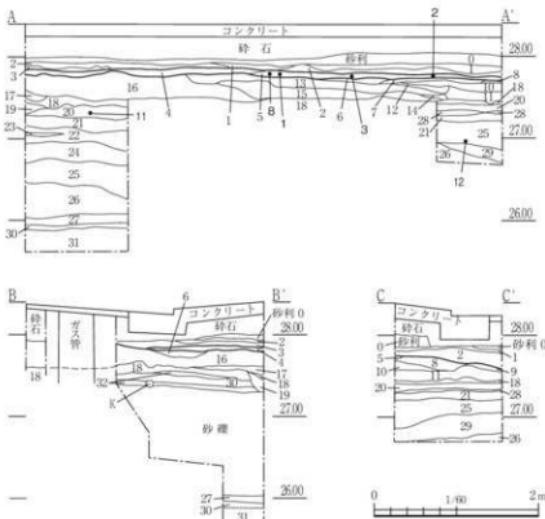
厚さ約30cmのローム主体の整地層（第1～16層）下には、厚さ30cm程の黒褐色土主体の層（第17～20層）、その下に厚さ約120cmの砂礫主体の層（第21～26層）があり、その下は再び黒褐色土主体の層（第27・30・31層）となる。なお、上位のロームを主体とする硬化面（第4・5層）では、古代～中・近世にわたる遺物が出土した。しかし、中・下位（現状での）整地層中（第20・25・31層）からは、中世遺物（3-11～13）が認められ、この土木工事（整地）の時期を示唆する。また、現地表面下60cm程で地山面が確認された2区の西端とは、僅かに10m程の距離にあり、この大規模な整地が自然地形に対して行われたものか、人工の施設に対して行われた結果かは現段階では明確にし難い。

#### 3区の出土遺物（第15図、第5・6表、写真図版8）

古代の須恵器、中・近世の土師質土器皿・塊・土鍋（3-1～4・9～11・13）、瓦質土器高台塊（3-5）、肥前系磁器染付小皿・碗（3-6・7）、龍泉窯系青磁碗（3-8）、古瀬戸系陶器水滴？（3-12）、瓦、近代のレンガ・碍子等が出土した。（水野）



第13図 3区平面図

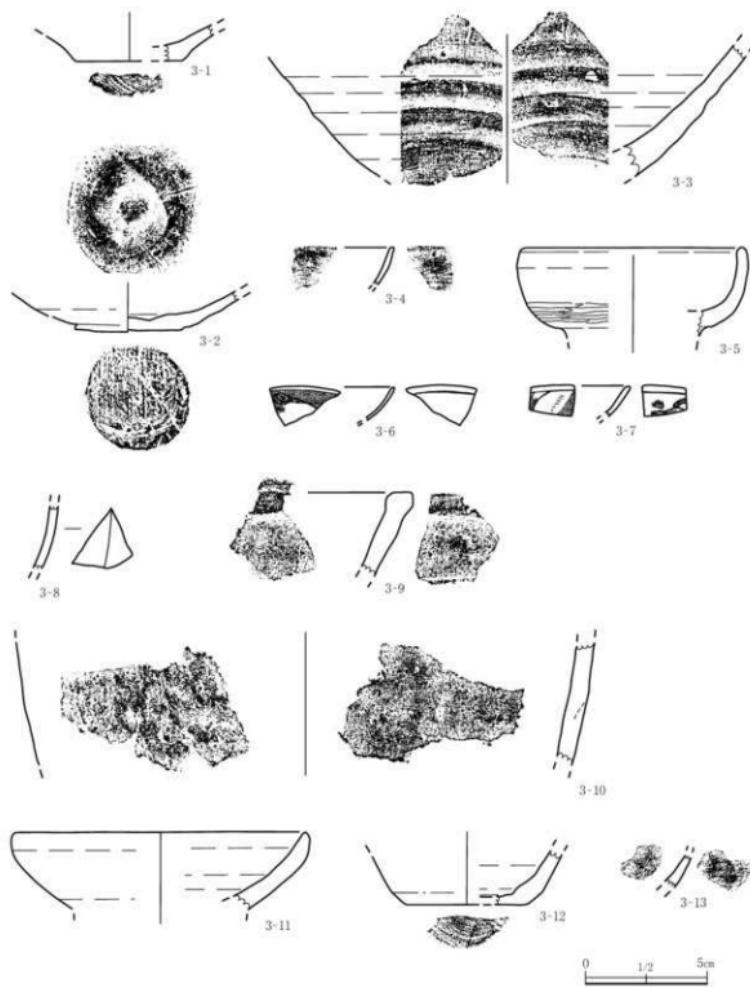


3区 北・東・西面

0. 黒褐色土(10YR4/4)と円礫(20～50 mm)1:1の混合土。締まり強い(近代整地場)
1. 黒褐色土(75YR3/2) LR(2～4 mm)20%含む。締まり強い。
  2. LR(2～10 mm)50%、黒褐色土(75YR3/2)R(1～10 mm)20%、褐色土(10YR4/4)15%含む。締まり強い。
  3. LR-LB(1～30 mm)主体。締まり強い。整地層
  4. LR-LB(1～30 mm)主体。褐色土(10YR4/3)B(10～15 mm)5%含む。締まり強い(硬化2面)
  5. LR-LB(1～30 mm)主体。黒褐色土(10YR2/1)R(1～10 mm)30%含む。締まりあり(硬化2面)
  6. 黑褐色土(10YR2/3) LR(3～5 mm)30%含む。締まり強い(硬化2面)
  7. LR-LB(1～20 mm)主体。黒褐色土(75YR3/2)30%含む。締まり強い(硬化2面)
  8. LR-LB(1～20 mm)主体。締まり強い(硬化2面)
  9. 黑褐色土(10YR2/3) LR(1～5 mm)5%含む。締まり強い(硬化2面)
  10. 黑褐色土(10YR2/3) LR-LB(1～50 mm)少量。CR(1～10 mm)円礫(20～50 mm)微量含む。締まり弱い。
  11. LB(10～40 mm)主体。黒褐色土(10YR2/3)B(10～20 mm)10%含む。締まり弱い。
  12. LR(1～10 mm)主体。黒褐色土(10YR2/2)B(10～20 mm)40%含む。締まり弱い(硬化2面)
  13. LR-LB(1～30 mm)主体。黒褐色土(10YR3/2)B(10～20 mm)3%含む。締まり強い(硬化2面)
  14. 黑褐色土(10YR2/3) LR(1～5 mm)40%、締まり弱い。
  15. LR(1～5 mm)主体。黒褐色土(10YR2/3)15%含む。締まり弱い。

16. LR-LB(1～130 mm)主体。CR-SR(1～20 mm)混じりの黒褐色土(10YR2/3)B(10～20 mm)15%含む。締まり弱い(硬化2面)
17. LR-LB(1～40 mm) 黄褐色土(10YR4/6)30%含む。締まりあり
18. 黑褐色土(10YR3/1) 混化により赤化。やや粘性。締まりあり
19. 黑褐色土(10YR2/2) 円礫(10～30 mm)5%含む。液化による赤化立つ。やや粘性。締まりあり
20. 黑褐色土(75YR3/2) LR-黒褐色土(10YR2/1)R(1～10 mm)50%、円礫(20～40 mm)5%含む。締まりあり
21. 黄褐色土(75YR4/6) 白色粘土(25Y7/1)B(30～70 mm)20%、円礫(20～40 mm)25%含む。締まりあり
22. 黄褐色土(75YR4/3) 円礫(20～30 mm)30%、灰白色粘土(25Y7/1)B(10～20 mm)10%含む。砂質。締まりあり
23. 黑褐色土(10YR2/2) 円礫(20～30 mm)15%含む。締まりあり
24. 黄褐色土(75YR3/2) 円礫(30～50 mm)30%、凝灰岩粉少量含む。砂質。締まりあり
25. 黄褐色土(75YR2/2) 円礫(20～40 mm)25%、灰白色粘土(25Y7/1)R(1～10 mm)5%含む。砂質。締まりあり
26. 円礫(50～100 mm)主体。黒褐色土(75YR2/2)30%含む。締まりあり
27. 黑褐色土(75YR2/1) 混化糞含む。締まりあり
28. 黄褐色土(10YR3/4) 円礫(30～30 mm)10%含む。やや粘性。締まりあり
29. 黑褐色土(75YR2/2) 円礫(30～50 mm)25%、褐色土(10YR4/3)30%含む。砂質。締まりあり
30. にじみ黒褐色土(10YR5/4) LR(1～5 mm)主体。締まりあり
31. 灰褐色粘土(10YR4/2) LR(1～10 mm)5%含む。締まりあり
32. 黄褐色土(10YR6/1) シルト質。締まりあり

第14図 3区北・東・西面土層図



第15図 3区出土遺物

第5表 3区出土遺物観察表

| No.  | 種別          | 大きさ (cm)                            | 遺存度 | 整形・手法等                      | 胎土・焼成・色調   | ( ) 推定値 [ ] 現存値   |                                 |
|------|-------------|-------------------------------------|-----|-----------------------------|--|---|---------------------------------|
| 3-1  | 土師質土器<br>皿  | 口径<br>器高<br>底径<br>[15]<br>[42]      | —   | 体・底部片                       | ロクロ成形、底部糸切り  | 胎土：精良 焼成：普通 色調：内・外にぶい褐色 (10YR7/3)                               |                                 |
| 3-2  | 土師質土器<br>皿  | 口径<br>器高<br>底径<br>[17]<br>[42]      | —   | 体・底部片                       | ロクロ成形、底部糸切り、板目状圧痕  | 胎土：白色砂粒、赤褐色粘、雲母<br>細綿 焼成：普通 色調：内・外<br>橙色 (5YR6/6)               |                                 |
| 3-3  | 土師質土器<br>塊  | 口径<br>器高<br>底径<br>[53]              | —   | 体部断片                        | ロクロ成形、ロクロ目明顯   | 胎土：長石粒、雲母細綿 焼成：普<br>通 色調：内・外 橙色 (25YR5/6)<br>・ぶい褐色 (7.5YR5/4)   |                                 |
| 3-4  | 土師質土器<br>皿  | 口径<br>器高<br>底径<br>[15]              | —   | 口辺部断片                       | ロクロ成形  | 胎土：精良 焼成：普通 色調：内<br>・外にぶい褐色 (7.5YR7/4)                          |                                 |
| 3-5  | 瓦質土器<br>高台壇 | 口径<br>器高<br>底径<br>[88]<br>[36]      | 25% | ロクロ成形、内外面横にミガキ、付高台          | 胎土：砂粒 焼成：良好 色調：<br>内・外 黄灰色 (10YR5/1)                         |   |                                 |
| 3-6  | 細器染付<br>小皿  | 口径<br>器高<br>底径<br>[85]<br>[14]<br>— | —   | ロクロ成形、外面貼文、外縁に圓線、<br>薄胎の上手品 | 胎土：精良 焼成：良好 色調：<br>胎 白色 (N8.0)                               | 4・5層中<br>肥前系 18C 後半   |                                 |
| 3-7  | 細器染付<br>皿   | 口径<br>器高<br>底径<br>[12]              | —   | ロクロ成形、口辺部断片                 | ロクロ成形、外表面宝文、外縁に圓線<br>と宝文、内面も染付で施文を見る                         | 胎土：精良 焼成：良好 色調：<br>胎 白色 (N8.0)                                  | 4・5層中<br>肥前系 18C 後半             |
| 3-8  | 細器青磁<br>碗   | 口径<br>器高<br>底径<br>[25]              | —   | 体部断片                        | 外面施青文、内外面オーリー灰褐色の<br>磁釉を施す。運舟は浅い割り、体部下部<br>の破片、釉は透明で買入が認められる | 胎土：精良 焼成：良好 色調：<br>胎 灰色 (N5.0)                                  | 4・5層中<br>中国龍泉窯系<br>13～14C       |
| 3-9  | 土師質土器<br>土鍋 | 口径<br>器高<br>底径<br>[34]              | —   | ロクロ成形、口辺部断片                 | 輪積み  | 胎土：白色砂粒目立つ<br>焼成：普通<br>色調：内・外にぶい褐色 (10YR7/2)<br>外 黑色 (7.5YR2/1) | 4・5層中                           |
| 3-10 | 土師質土器<br>土鍋 | 口径<br>器高<br>底径<br>[40]              | —   | 体部断片                        | 輪積み、内面横ナデ。外表面粗いナデ。<br>粘土接合痕目立つ                               | 胎土：砂粒、赤褐色<br>焼成：普通<br>色調：内・外にぶい褐色 (7.5YR3/2)                    | 4・5層中                           |
| 3-11 | 土師質土器<br>皿  | 口径<br>器高<br>底径<br>[32]              | —   | ロクロ成形、口辺・体部断片               | ロクロ成形  | 胎土：砂粒、小石子粒、雲母較<br>焼成：普通<br>色調：内・外 橙色 (7.5YR6/6)                 | 20層中、No.6                       |
| 3-12 | 陶器<br>水滴?   | 口径<br>器高<br>底径<br>[22]<br>[5.0]     | —   | 体・底部断片                      | ロクロ成形、底部糸切り後板目状圧痕、<br>体部下端へラブリ、内面ロクロ目顯著。<br>残存部に施釉は認められず     | 胎土：精良 焼成：良好 色調：<br>内・外 灰白色 (10YR8/1)                            | 25層中、No.5<br>吉備川中期後半～<br>14C 後半 |
| 3-13 | 土師質土器<br>皿  | 口径<br>器高<br>底径<br>[14]              | —   | 体部断片                        | ロクロ成形  | 胎土：細砂粒 焼成：普通 色調：<br>内・外 橙色 (5YR7/6)                             | 31層中                            |

第6表 出土遺物一覧表

| 出土位置     | 出土遺物           | 古代 | 中世 | 近世 | 現代 | 総計    |
|----------|----------------|----|----|----|----|-------|
| P3       | 土器質土鍋          | —  | 3  | —  | 1  | —     |
| P6       | 細器<br>肥前系 染付蓋  | —  | 1  | —  | 1  | —     |
| P5       | 瓦 男女<br>丸瓦     | —  | 1  | —  | 1  | —     |
| P11      | 土器質土鍋          | —  | 1  | —  | 1  | —     |
| SD-1     | 土器質 蓋(カワラケ)    | —  | 1  | —  | 1  | —     |
| SX-1 下層  | 鉄製品<br>釘(機械造り) | —  | 1  | —  | 2  | —     |
| レンガ      | —              | —  | 1  | —  | 1  | —     |
|          | 男女瓦<br>丸瓦      | —  | 1  | —  | 1  | —     |
| SX-1 上層西 | 瓦 女瓦<br>丸瓦     | —  | 3  | 3  | —  | —     |
| 1区       | 細器<br>器種不明     | —  | —  | —  | 1  | —     |
|          | 須恵器<br>环       | —  | 1  | —  | 1  | —     |
| SX-1 上層東 | 瓦 女瓦           | —  | 1  | —  | 1  | —     |
| SX-2     | 土器質 蓋?         | —  | 1  | —  | 1  | —     |
|          | 土器質 盆(カワラケ)    | —  | 1  | —  | 1  | —     |
| 表土中      | 瓦 男女瓦<br>丸瓦    | —  | 1  | —  | 1  | —     |
|          | 陶器<br>土管       | —  | —  | 1  | 1  | —     |
| 整地4・5層   | 埴跡<br>盆?       | —  | 1  | —  | 1  | —     |
|          | 土器質 蓋(カワラケ)    | —  | 1  | —  | 1  | —     |
| 3区       | 瓦 男女瓦<br>丸瓦    | —  | 5  | 5  | —  | —     |
|          | ガラス 磨          | —  | 7  | 7  | —  | —     |
| SF-1・2層  | 細器<br>土器       | —  | 1  | —  | 1  | —     |
|          | 土器質 盆(カワラケ)    | —  | 2  | —  | 2  | —     |
| SF-1・6層  | 土器質 器種不明       | —  | 2  | —  | 2  | —     |
|          | 土器質 土鍋(カリケ)    | —  | 2  | —  | 2  | —     |
| SF-1・7層  | 土器質 須恵器<br>环   | —  | 1  | —  | 1  | —     |
|          | 土器質 蓋          | —  | 1  | —  | 1  | —     |
| SF-1・12層 | 土器質 須恵器<br>环   | —  | 1  | —  | 1  | —     |
|          | 土器質 蓋          | —  | 1  | —  | 1  | —     |
| 西Tr      | 瓦 女瓦<br>レンガ    | —  | 1  | —  | 1  | —     |
|          | 瓦 女瓦<br>細器     | —  | 2  | —  | 2  | —     |
| 南Tr      | 瓦 女瓦<br>細器     | —  | 1  | —  | 1  | —     |
|          | 計              | —  | 7  | 40 | 34 | 16 97 |

## 第4章 総括

### 第1節 土地利用の変遷

今次調査区は前述の通り、1～3区の合計が56m<sup>2</sup>と著しく少なものであった。しかし、北に隣接する市立水戸第二中学校の改築に伴って実施された第6・18・23次調査（以下北側隣接地と記す）では、合計7,619m<sup>2</sup>に及ぶ広範囲にわたる調査が実施され、膨大な成果の蓄積がある（渥美・河野・美濃部 2014 以下北側隣接地と記す場合、引用文献略す）。また、近隣では本市道改良に伴う過去の第39・40・43次調査（宮田・関口 2017）などにより貴重な知見が得られている。そこで、近隣の調査成果を援用しつつ、当該地の土地利用の変遷を記す。

**縄文・弥生時代** 今次調査においては、遺構・遺物とも確認されなかった。北側隣接地においては堅穴建物跡等の確認はないが、早期～後期にわたる土器、石器などが出土した。また、弥生時代の土器片も採取されており、土地利用の片鱗が窺える。

**古墳時代** この時期の遺構・遺物とも確認されていない。しかし、北側隣接地では第6次調査で古墳前期～中期初頭の堅穴建物跡が3軒確認されており、集落の形成が見られる。また、中期頃と思われるM字形低窪帯を持つ円筒埴輪が出土しており、この台地上に中期古墳の存在を考慮する必要があろうか。

**奈良・平安時代** 当地は古代においては常陸国那珂郡常石郷・吉田郷に属し、その郡家は北約5kmの台渡里官衙遺跡群に比定されている。調査区内においては須恵器の細片が出土している。北側隣接地では、堅穴建物跡が4軒確認され、遺物は広範囲に分布しているようである。また、南東約150mの県立水戸第三高等学校内でも該期の堅穴建物跡が1軒確認されており（松林 2012）、台地上に集落が形成されていたであろうことが知られる。

**中世** 12世紀末～13世紀初め頃、台地の先端部、近世の本丸付近に馬場資幹が居館を構えたのが水戸城（当時は馬場館）の端緒とされる。馬場氏は建久4（1193）年、常陸大掾職となり、常陸府中城（石岡市）と水戸城に根拠を置いた。水戸城は、その後約2世紀にわたり、馬場大掾氏の居城となった。

朝北朝期には、北朝方の常陸守護職佐竹氏の台頭によって南朝方の馬場大掾氏は、この地域における勢力が衰退しつつあった。当時佐竹氏の配下にあった江戸通高は天中3（1387）年の武功により、馬場大掾氏の領域内に所領を与えられ、水戸地域への進出を果す。これに対し、馬場大掾氏は応永7（1400）年、水戸城の改修を行い防備を強化した。しかし、馬場大掾氏は応永23（1416）年、上杉禪秀の乱で佐竹氏に敗れて衰退の一途をたどる。応永33（1426）年、江戸通房は城主満幹不在中の水戸城を急襲して占拠し、河田城（水戸市）より移る。この後、水戸城は七代約165年間にわたり江戸氏の居城となる。

なお、馬場氏の館は現在の県立水戸第一高等学校敷地の旧「本丸・東二の丸」付近と見られるが、応永7（1400）年の改修も含め詳細は明確にし難い。

江戸氏は、馬場館のあった本丸のみならず二の丸まで整備した。本丸部分を「内城」「古実城」、二の丸部分を「宿城」「天王曲輪」と称し、内城に居館を構えた。宿城には一族・

重臣の屋敷地の他宿・市が設けられたとされる（堀口・伊東 1968）。

北側隣接地の第6次調査において、深さ5mに及ぶ谷を埋る大規模な整地（普請）の跡（第16図、8H～9O区）が確認され、15世紀前半代の所産と考えられている。また、同前8M区では13世紀後半と見られる古瀬戸の瓶子に、1,500枚程の渡来銭が詰められて埋納されたと考えられるものが出土した。後世の工事によって原位置は離れているものの、整地等の普請に伴う奉賛銭の可能性が想定されている。その時期は出土銭貨の鋳造年代（宣徳通宝：1433年）から15世紀前半代と推定される。さらに、調査区より大小（幅2～4m、深さ1～2m）30条に及ぶ、堀・溝などが確認された（第16図 M1～30）。郭内の区画施設であり、方位、重複関係から、3時期以上に大別される土地利用の転換を見ることが出来るようである（閔口 2016）。

従来、佐竹氏が形成した水戸城を、徳川氏が大改修・整備して現存の水戸城が出来上がったと考えられてきたが、二の丸の素形は江戸氏の時代まで遡ることが明らかとなった。

水戸城へ進出してからの江戸氏はさらに勢力を増し、佐竹氏より「一家同位」、主家と同格の地位を認められる程であった。しかし、天正18（1590）年、豊臣秀吉の小田原攻めに際して参陣を怠ったことにより、立場が一変する。同年、秀吉より常陸一国を安堵された佐竹義宣は水戸城の開け渡しを江戸へ重通に要求するが拒絶され、同年12月義宣は水戸城を攻略する。翌19（1591）年3月、義宣は太田城（常陸太田市）より水戸城に移り、文禄2（1593）年、朝鮮出兵より戻り本格的に水戸城及び城下の大規模な普請を行った。

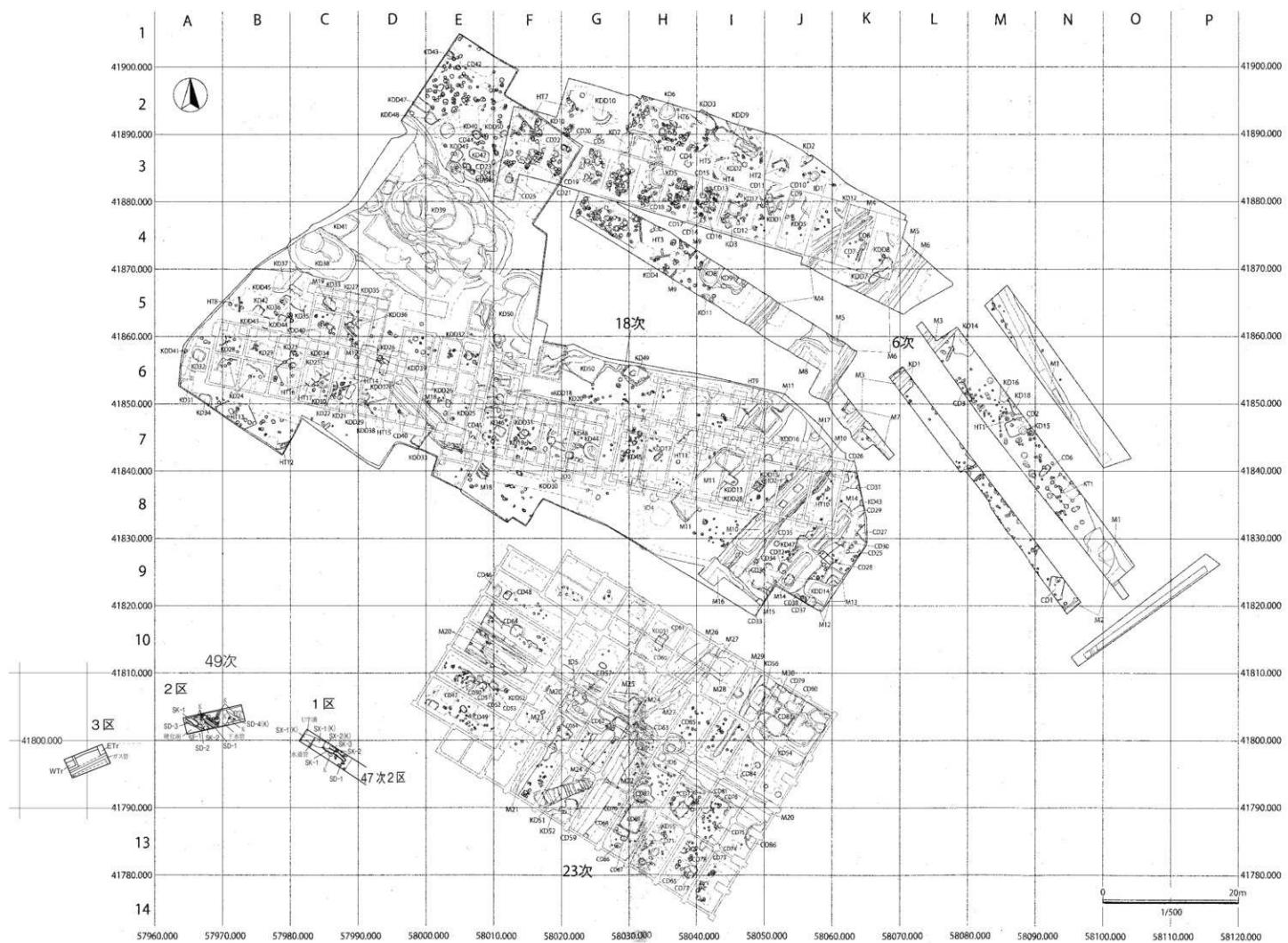
佐竹氏は、江戸氏時代の内城を整備して本丸とし、二の丸には義宣の館を構えて本丸の機能を二の丸に移した。さらには、三の丸や本丸の東に下の丸（淨光寺曲輪、東二の丸）なども整備した。そして、町人地も設けたとされる。

なお、後の徳川氏時代にも二の丸に御殿を設けたのは、佐竹氏時代に三の丸が整備されるに際して、二の丸堀と二の丸土塁も完成し、大手門や大手橋まで完備していた為と推察される。天明6（1786）年に、水戸藩士の高倉胤明がまとめた『水府温故地理録』に【大手門の坪鐵には、慶長6（1601）年】、【大手橋の欄干のぎぼうしに、文禄五（1596）年の紀念銘があったことが記されており（茨城県史編さん近世史第1部会編 1968）。そのまま踏襲したことの査証となろう。

佐竹義宣は慶長7（1602）年に秋田へ移封となり、その後は一貫して徳川氏の居城となる。慶長8（1603）年、家康の5男武田信吉が封ぜられたが、翌慶長9（1604）年、信吉の急死により10男長福丸（後の徳川頼宣）が入封したが慶長14（1609）年転封の為、11男の頼房が入部した。水戸徳川家は、この頼房を初代として11代にわたり水戸の領主として明治維新を迎えることとなる。頼房は寛永2（1625）年より同15（1638）年にかけて水戸城及び城下の整備を行った。その結果、水戸城は主郭部分（下の丸、本丸、二の丸、三の丸）だけで東西約1.2km、南北最大約400mとなり、惣構は北辺が那珂川、南辺を千波湖とし、東西約3.5km、南北最大1.2kmに及ぶ拡大な規模となった。

今次調査の対象地二の丸曲輪には前述のとおり御殿が設けられ、実質的な本丸機能を果すこととなる。なお、御殿は平屋建てで、曲輪の中央から南側にかけて約3分の2程を占める。その北辺に沿って東西に大手道が通り、本丸と三の丸とを連絡する。

なお、二代藩主光圀は元禄2（1697）年、大日本史編さんの史局である彰考館を水戸



第16図 第6・18・23・49次造構配図 - 33 - 34 -

にも開設し、御殿と大手道を隔てた北側に設ける。今次調査区は、この御殿と彰考館の間を通る大手道の北（彰考館）側にあたり、西端の3区は大手門北側の二の丸土塁の裾部に近接している。

明治維新となり、明治4（1871）年の廃藩置県に伴って水戸城も廃城となり、御殿や彰考館などの藩政下の主な建物は撤去された。さらに、翌5（1872）年には水戸城は何者かの放火によって多くの建物が焼失したという。

また、明治期に入ると二の丸曲輪には旧御殿跡地に茨城尋常師範校、旧彰考館跡地には図書館等が設けられ、大手道はそのまま利用されたものと考えられる。北側隣接地の調査では、師範学校の校章がプリントされた湯呑み茶碗などが多数出土している。

なお、これらの施設を含む水戸市街地は、昭和20（1945）年8月2日未明の所謂「水戸大空襲」によって約1万戸が焼失し、約5万名が被災したという。この空襲によりからうじて遺されていた水戸城二の丸の三階櫓なども焼失してしまった。

## 第2節 今次調査の成果

前節では、近隣の調査成果を援用しつつ当該地区の土地利用の変遷を略記した。ここでは、今次調査の成果を中心に記す。

**第1号道路跡** 2区において道路跡（SF-1、第8・9図）と考えられる遺構を確認した。調査出来た範囲は調査区西半の12m程である。大手道を対象とした調査でありながら、これまでの調査では確認されなかった（宮田・関口 2017）。

現地表面下約50cmのところに、暗褐色で上面が砂質を帯びた硬化①面が確認された。中央に擾乱が見られるものの、東西約5m、南北2m程の範囲で、路面は平坦であった。さらに北側に広がっていたと判断されるものの、擾乱に切られていて判然としない。

これを除去すると、北側の幅1m程は褐色（硬化②面）、他は暗褐色の硬化③面が確認された。路面はほぼ平坦であるが、両者の境は明瞭で北側の硬化②面を硬化③面が切っていると判断された。その後、南側の硬化面を順次除去して行くと、当初は南に向かって僅かに下降する程度であったが、徐々にその傾斜が急になり、最終的には第1号溝跡（SD-1）が現れた。すなわち、本跡は本来側溝を設けた道路であることが判明した。

この第1号道路跡（硬化⑨面）は、確認面より40cm程掘り下げて路面とし、その端に上幅約70cm、底幅約25cm、確認面からの深さ約65cm程の側溝を設けていた。次は側溝が若干埋まった状態で補修され、順次補修の度ごとに嵩上げされて最終的には硬化①面の如き平坦な路面となって幅も広げられたものと判断される。この間の補修は部分的なものも含め8回に及び、位置を変えずに長期間にわたり利用されてきたことが知られる。

なお、この下の硬化⑩面の下よりSD-1にはほぼ平行するよう設けられた幅30cm程の第2・3号溝跡（SD-2・3）を確認した。内（南）側のSD-3の上に外（北）側のSD-2が設けられていた。先行する道路跡の側溝の痕跡と判断し硬化⑪・⑫面として捉えた。しかし、両者とも灰色のシルト質の土で埋まっており、水分によって酸化した赤褐色の層が底面となっていて、SD-1の底面とは明確に異なる。あるいは、路面強化に伴う基礎工事の痕跡である可能性も全くは否定できない。

本跡からの出土遺物は極めて少ないものの、第16層より出土の土師質土器は16世紀後半代と考えられ、その頃に普請されたものと推察される。また、北側隣接地における堀・溝跡の検討に拠れば、4群に区分され、1～3群は15～16世紀の江戸氏による普請、本跡の主軸方位N-58°-Wに近似する4群は17世紀（16世紀末）の佐竹氏による普請と推定されており（関口 2016）、江戸氏の頃より利用されていた道を佐竹氏が整備したと考えられる。

なお、廃藩置県後に新政府側によって作成されたと推定される「水戸城実測図」（茨城県立図書館蔵）によれば、大手道の幅員は約18m、現在の歩道を含めた幅員は約17mで近似する。しかし、本跡の側溝を設けた道路はその半分程の幅員しか想定できない。該期の路面は硬化①面とした最上層面及びその上に存在したものであろうか。

**埋納遺構** 前記の2区の第1号道路跡（SF-1）の北脇に確認した小穴1（P1）より短刀と見られる刃器が出土した。P1は径が35×42cmの円形で深さ35cm。覆土中に刃部を上にして、ほぼ垂直に埋められていた。ミニユンボのバケット痕跡がこの短刀に接する状態で残されていることから、上部はこれにより欠損したものと考えられる。茎に木質が遺存するものの、鉄製の鑓以外の刀装具は遺存せず、抜身の状態で埋められた可能性が高い。また、鑓が鉄製であることからすると、戦国期に量産された粗悪品の可能性もある。しかし、出土状態から推して意図的に埋納されたものと考えられる。これ以外の出土品はないが、隣接する小穴2（P2）より17世紀前半代と見られる焰器片が出土した。また、周辺に多数の小穴が認められ、道路側溝に沿って並ぶように見受けられるが、建物などの構造物としては捉えられなかった。本跡の性格については、江戸遺跡の地鎮・埋納遺構に関する近年の研究（関口 2013）に類例は認められないが、関口氏の提唱する「グレイゾーンの埋納遺構」の一例と見ることが出来よう。その具体的目的は明確にし難いが、曲輪内のメイン道路の脇であることから、道路の普請に伴う地鎮の可能性が推察される。

**土壘裾部の整地** 3区では地山面を確認することができず、調査区全体が整地層であった。殊にWトレントでは現地表面下約2.8mまで掘り下げたが、さらに1m以上下がることが確認された。北東方約10mの2区では深さ60cmで地山のローム面に至るのに比べ著しい違いである。また、先年実施された大手門付近の調査でも現地表面下2.5m程で旧表土面に至り、二の丸堀に向かってなだらかに下降する（宮田・関口 2017）。前節でふれたように、北側隣接地では台地縁辺部の深さ5mに及ぶ谷が15世紀前半に整地されていた。現在は平坦に見える二の丸曲輪であるが、比較的起伏に富む地形であったことが知られる。また、南と北の台地縁辺部ではなく、台地の奥まった部分に前記のような凹地が存在することからすれば、あるいは二の丸堀は付近に谷状の地形が存在し、これに人工を加えることにより普請の省力化を図った可能性も皆無ではないと思われる。なお、3区の上層整地土中からは古代の須恵器片や近世遺物に混じって龍泉窯系青磁碗の破片、中層の砂礫層中より古瀬戸中期後半（14世紀後半）の水滴片？が出土しており、伝世を考慮しても比較的古い段階での普請が推察される。

本章の執筆にあたっては、市埋蔵文化財センター関口所長の執筆資料に拠る所大であるとともに、種々ご指導を賜ったことを明記する。また、陶磁器は山下守昭氏に拠る。なお、理解不足や誤解があればすべて筆者の責に帰す。

(水野)

# 写 真 図 版



A. 1区全景（東より）



B. 1区東半小穴群（東より）



C. 1区 SK-1～3 完掘（南西より）



D. 1区 SK-1・3 土層（西より）

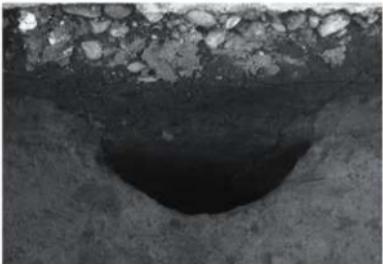


E. 1区 SD-1・P 1 土層（東より）

写真図版2



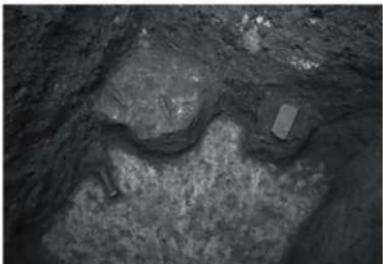
A. 1区P2土層・完掘（北より）



B. 1区P3土層・完掘（南より）



C. 1区P6・7土層・完掘（南より）



D. 1区SX-1近代遺物（西より）



E. 2区全景（東より）



B. 2区構造確認時（西より）



C. 2区①硬化面（西より）



D. 2区②硬化面（南東より）



E. 2区⑥硬化面（北西より）

写真図版 4



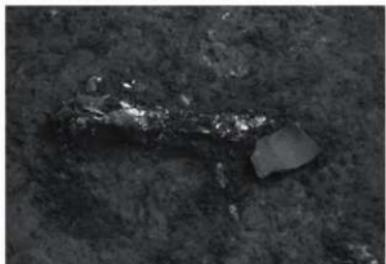
A. 2区⑦硬化面 (北西より)



B. 2区⑨硬化面 (北西より)



C. 2区SD-1 完掘 (南東より)



D. 2区⑩硬化面遺物No.5・骨片 (東より)



E. 2区SD-1 16層中遺物 (骨片) (南より)



F. 2区⑫硬化面, SD-2・3完掘 (北西より)



G. 2区南側硬化面土層 (北より)



H. 2区南側硬化面・SK-2土層 (北より)

写真図版 5



A. 2区中央小穴群（南東より）



B. 2区P1埋納物No.6（北より）



C. 2区SK-1完掘（南東より）



D. 2区SD-4完掘（北西より）



E. 3区全景（硬化面・東より）

写真図版 6



A. 3区硬化面遺物No.3（南より）



B. 3区硬化面遺物No.2（東より）



C. 3区東Tr遺物No.12（南より）



D. 3区東Tr遺物No.12近景（西より）



E. 3区西Tr遺物No.11（南より）



F. 3区西Tr遺物No.11近景（南より）

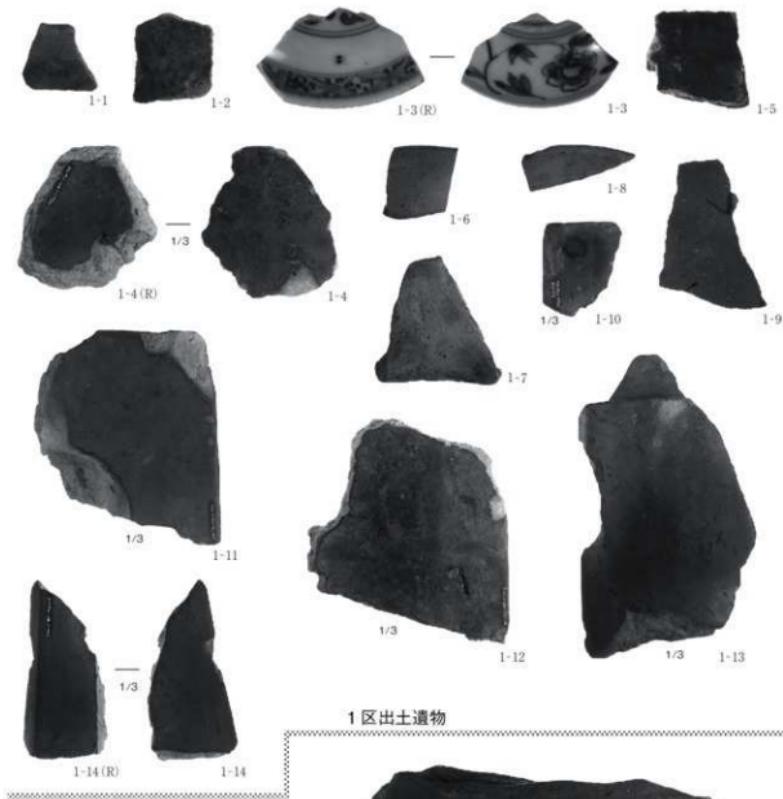


G. 3区西Tr土層（南より）



H. 3区東Tr土層（西より）

写真図版 7



1区出土遺物



2区 (1) 出土遺物

写真図版 8



2-9



2-11

2-11



2区(2)出土遺物



3-2



3-7



3-12



3区出土遺物

報告書抄録

水戸市埋蔵文化財調査報告第94集

## 水戸城跡（第14地点第49次）

一市道上市353号線道路改良・電線共同溝  
工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2—

印刷 平成29年9月28日

発行 平成29年9月28日

編集 株式会社日本産業史研究所

発行 水戸市教育委員会

印刷 株式会社松井ビ・テ・オ・印刷

〒321-0904 栃木県宇都宮市陽東5-9-21